

## 旧下関市西部の陸産・淡水産貝類（汽水産を含む）

増野和幸・川野敬介

豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

### Land and fresh water molluscs (including brackish water) of the western region of the former Shimonoseki City, Yamaguchi Prefecture, Japan

Kazuyuki MASHINO and Keisuke KAWANO

The Firefly Museum of Toyota Town, Nakamura 50-3, Toyota, Shimonoseki, Yamaguchi Pref., 750-0441 Japan

**Abstract** A total of 90 species extant land, fresh-water and brackish-water molluscs were observed in the western region of the former Shimonoseki City from December 2021 to October 2022. Seventy land molluscan species including *Japonia sadoensis* Pisbry & Y. Hirase, 1903, *Reinia variegata* (A. Adams, 1868) and sixteen of freshwater molluscan species including *Moria nipponica* (Mori, 1937) and *Polypylis hemisphaerula* (Benson in Cantor, 1842) were briefly described. In addition, we have recorded four brackish-water molluscan species including *Angustassiminea castanea* (Westerlund, 1883). On top of that, *Vallonia pulchella* (O. F. Müller, 1774), one of the introduces land snails in Japan, is reported from Yamaguchi Prefecture for the first time.

**キーワード:** 陸産貝類, 淡水産貝類, 外来種, 旧下関市

**Key words:** land mollusc, freshwater mollusc, introduced land snail, former Shimonoseki-city

### はじめに

山口県下関市は本州西端に位置し、関門海峡を隔てて九州と接しており、西岸は響灘に面し、海峡の東側は瀬戸内海に面している。今回の調査地域は、合併前（2005年2月に5市町村が合併）の旧下関市西部である。旧下関市は、北部を旧豊浦町と旧菊川町、東部を美祢市、山陽小野田市と接する。そのうち、北部の吉母地域から国道191号線沿いに南下し、吉見、福江、安岡、綾羅木、幡生、そして壇ノ浦地域までを海岸線に沿った範囲として、2021年に旧下関市の東部地域は調査が終了しているので、それより西の地域を調査対象とした。また、響灘に浮かぶ蓋井島、北九州に隣接する六連島、橋梁によって結ばれた彦島及び最西端の竹ノ子島も範囲とした。地勢的な概要は既報告（増野・川野, 2022）に譲るが、豊浦町に隣接する吉母・吉見地域は永田川・西田川の流域に広がり、綾羅木川の流域も含め広い平地が発達し水田地帯となっている。友田川の上流には深坂溜池があり、自然の森が保全されている。吉見地域の東には竜王山（613 m）、南部地域には権現山（317 m）、火の山（268 m）、霊鷲山（285 m）が低いながらも山地帯を形成し、長府地域には大唐櫃山（138 m）が位置する。市内各地域には社寺林や地域の公園等に利用されているまとまった山林が存在し、市街地における憩いの場所であるだけでなく、貴重な動植物の生息環境となっている。一方、彦島地域も含め蓋井島、六連島の島嶼部は、畑作や住宅地として山林が開発されている。

調査対象地の陸・淡水産貝類に関する知見としては、旧下関市の編集・発行した『下関市史』（1983, 1989, 2008, 2009）, 『下関市史資料編』（1990, 1992, 1993, 1994, 1996, 1999, 2001）等をもみても、歴史的分野は充実しているが、自然分野に関する内容は貝類も含めて記述が見当たらない。こうした中、『下関市吉見地区の貝類』として県立山口博物館が実施した夏季科学講座の報告がある（河本, 1964）。その中に28種類の陸・淡水・汽水産を含めて500種の貝類が記録されている。豊かな海産貝類が生息していたことが分かる。また、全国に先駆けてまとめられた『山口県産貝類目録』（河本・田邊, 1956）には、当地産の海産2種が掲載されている（河本, 1964）。蓋井島の非海産貝類を調査した報告（増野, 1990）では、微小種も含めて18種が記録されている。また、県内の貝類について県立山口博物館が図録的にまとめた『概説 山口県の貝類』（福田ほか, 1992）の中では、響灘に焦点を当てて「日本海産の海生、淡水生貝類」に関して、彦島、安岡、古宿、福江、吉母ごとに紹介している。さらに同図録の中では「陸生、淡水生貝類」に関して、島嶼部の蓋井島の貝相についてもまとめて紹介している。

このように過去における陸・淡水産貝類相に関して、旧下関市西部において、一部地域についてある程度の知見を得ることはできるが、全域にわたっての状況を把握することはできない。そこで、本報告では過去の報告（増野・川野, 2017; 2018; 2020; 2021; 2022）に続いて実施した調査結果を報告する。本調査はおおむね2021年12月から2022年10月に実施したものであるが、過去に採集された標本も記録として採用した。

この調査結果は、県内および市内各地域の非海産貝類相把握の基礎資料として役立つものとする。

## 調査地および方法

現地調査（2021～2022年）に加えて過去の記録（文献）および豊田ホテルの里ミュージアム収蔵標本、筆者らの所有する記録を基に、旧下関市西部の陸産・淡水産、一部汽水産貝類の生息状況をまとめた。文献での記録は、一般に公表されている分布記録が掲載された論文や記載論文を対象とした。標本調査は現地調査により得られた標本、豊田ホテルの里ミュージアムの収蔵標本および筆者らが所有している過去の記録情報を対象に行った。なお、今回の調査では、河川の河口域における感潮帯で観察できた汽水産もあわせて採集した。

過去における個人等の記録については、報告論文に記録された情報および直接、本人から提供のあったものも採用した。現地調査では目視で確認した個体を直接採取するほかに、微小種は落葉下の土壌を篩にかけ持ち帰り、顕微鏡下でピンセットを用いて採取した。なお、標本の同定は基本的に増野が行い、同定確認を矢野重文氏にお願いした。

標本は、豊田ホテルの里ミュージアム貝類資料として保管する。

## 下関市西部の陸産・淡水産貝類（汽水産の一部を含む）の分布記録

本調査により得られた陸・淡水・汽水産貝類を以下に一覧にした。種毎に【記録】及び【備考】を加えた。【記録】は本調査で確認された生息地名、日付（採集日 yyyy-mm-dd）、個体数、採集者の順に示した。採集者については氏名を記したが、特別に明記のないものは筆者の一人・増野が記録したものである。生息地名は“山口県下関市”を省略し、それ以下の地名および場所を記載した。個体数は、標本として収蔵している個体数で、幼体・成体の区別はしていない。また、採集時の生死についての記録は取っていない。個体数の記述のないものは、採集個体がないものである。【備考】には形態や生態、および注目すべき特徴などについて解説した。また、各種学名の後に陸産または淡水産、汽水産を表示してわかりやすくした。

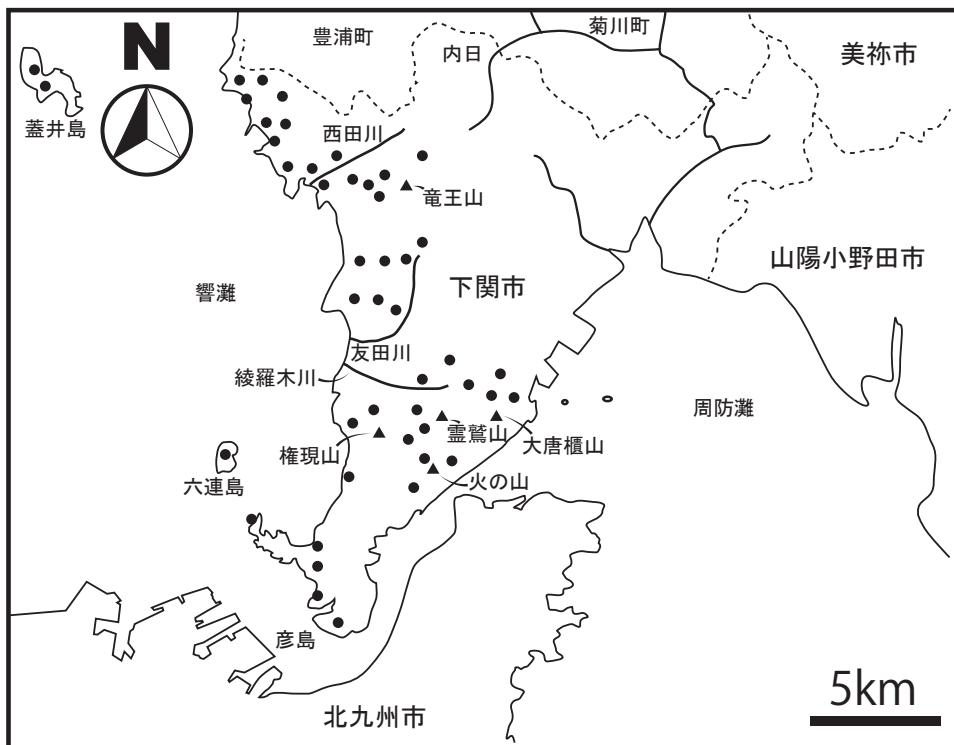


図1. 現地調査地点（黒丸）

学名および配列は基本的には福田 宏 (2020)『岡山県野生生物目録 2019 ver. 1.1 軟体動物門』を参考にしたが、陸産については、湊 宏 (1988)『日本陸産貝類総目録』, Motochin, Wang & Ueshima, R. (2017) を、淡水産貝類については、波部忠重 (1990)『日本産非海産水棲貝類目録』も参考にした。

### 調査結果

本調査で、生貝または死殻により陸産 18 科 70 種、淡水産 10 科 16 種、汽水産 2 科 4 種を確認した。そのうち 20 種は環境省のレッドリスト（環境省, 2020; 以下環境省 RDB）、16 種はレッドデータブックやまぐち（山口県環境生活部自然保護課, 2019; 以下山口県 RDB）の対象種であった。また、外来種として陸産貝類では 6 種（トクサオカチョウジガイ, オオクビキレガイ, ツヤミジンマイマイ, チャコウラナメクジ, コハクガイ, ヒメコハクガイ）、淡水産貝類では 3 種（ハブタエモノアラガイ, サカマキガイ, タイワンシジミ）を確認した。

陸産・淡水産・汽水産合わせて 90 種を確認した。これは過去に報告のある県内他地域、例えば旧美祢郡（秋芳町・美東町）の 84 種（増野, 1989）、旧豊北町の 82 種（増野・川野, 2018）などと比較しても多い種数である。一般に陸産貝が多産するとされる美祢市などの石灰岩地帯（黒田・波部, 1949; 湊, 1980）、旧豊北町が海岸部や島嶼・角島を抱えるなどによって生息数が多くなっているが、今回の調査地域は島嶼部は存在するが石灰岩地域は存在しない。こうした中で種数の多い要因を考察すると、対象地域が県西部であり九州地方と隣接し、両地域の生息分布が影響していることを反映していると考えられる。また、調査地域は地形的にそれほど高くない北部山地と、その間を流れる小河川とがつくる流域が、海岸部との間に水田や畑、さらに市街地に散在する寺社林や公園などの多様な環境が存在している。今回の結果は、こうした自然環境に基づく貝類相を十分反映したものと考えられる。なお、今回の調査の中では、

死殻のみの採集で軟体部の剖検ができなかった種、幼貝の記録のみで同定した種、少数の生貝のみで同定した種など不十分な点があり、今後課題を残した種もあった。

以下に本調査で記録した全 90 種の採集地および生息状況などについて記す。

## 腹足綱 Class Gastropoda

### アマオブネガイ目 Order Cycloneritimorpha

#### アマオブネガイ科 Family Neritidae

##### 1. イシマキガイ *Clithon retropictum* (Martens, 1878) (図版 I-1a-c) (淡水産)

【記 録】 吉見永田本町 (永田川河口), 2022-III-15, 4exs.; 吉見石王田 (永田川上流), 2022-III-15, 6exs.; 吉見新町 (用水路), 2022-IV-15, 6exs..

【備 考】 殻径 10 ~ 20 mm の半球状で、殻頂部が侵食により欠損している個体が多い。殻表面は緑褐色の殻皮で覆われ、細かい三角形の斑紋模様がある。石灰質の蓋をもつ。塩分を含む汽水域から純淡水域の岩礫上に生息し、川の堰などでは高い密度で観察される。礫表面に灰白色の胡麻粒状の卵嚢を生み付け、孵化した幼生は一旦河口を下り、海水に接した後河川を遡り生活する。こうした生活史からみると、イシマキガイは貝類の進化の過程において、海から淡水への進化の過程をよく示す種であることがわかる学術的な意義をもつ (西脇, 1996)。今回の調査では、永田川河口域の河床の礫表面、河岸のコンクリート壁、河川と通ずる水田用水路などで多数の個体を観察した。河口から 1km ほど上流部でも確認できた。近年、飼育用水槽の掃除屋としてペットショップや Web 上で販売されている。県内各地の河口で見ることができる。環境省レッドリストには掲載されていないものの、石川県 (石川県, 2020)、鳥取県 (鳥取県, 2022) などレッドリストで絶滅危惧種として掲載されている所もある。

## 新生腹足目 (中腹足目) Order Caenogastropoda

### ヤマタニシ科 Family Cyclophoridae

##### 2. ピルスブリムシオイガイ *Dicharax pilsbryi* (Kobelt, 1902) (図版 I-4a-c) (陸産)

【記 録】 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-22, 2exs.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 1ex..

【備 考】 山地の落葉下に生息する殻径 3.5 mm, 殻高 2 mm ほどの低い円錐形をし、殻に角質の蓋をもつ。殻背面にうじ虫状の呼吸管をもつため、「虫負い」の名が付く。県内に広く分布するが、個体数は極めて少ない。今回の調査では、竜王山南側に位置する深坂自然の森や竹生寺山一帯の山地から記録された。個体数はわずか 3 個体、そのうち 1 個体は幼貝であった。下関市内では豊北町や蓋井島、菊川町で、本種を一回り大きくした個体が見つかっており (増野・川野, 2021)、こちらは「オオピルスブリムシオイガイ」*Dicharax* sp. cf. *pilsbryi* と仮称されて (矢野, 2008; 2015)、現在、専門家により詳細が研究されている。

##### 3. オオピルスブリムシオイガイ *Dicharax* sp. cf. *pilsbryi* (MS) (矢野仮称: 未記載種) (図版 I-4a-c) (陸産)

【記 録】 椋野町・一里山公園, 2022-VII-18, 4exs.; 2022-XI-7, 7exs., 増野・松田真紀子; 蓋井島, 1988-XII-25, 6exs.; 2016-I-16, 20exs.; 2022-IV-9, 21exs.; 蓋井島北海岸 (角ヶ崎側斜面), 2022-IV-9, 10exs..

【備 考】 山地の落葉下に生息するムシオイガイの仲間である。前種ピルスブリムシオイガイに似るが、一回り殻が大きい。殻径 4.2 mm, 殻高 2.6 mm で、一里山で採集された個体は本種としてはやや小形である。殻口は肥厚して大きく反り返る。螺層は 3 3/4 層、螺脈は見られない。臍孔は殻径の約 1/3 で、広く深い。うじ虫状の呼吸管は小さく、高く肥厚しない。殻色は鮮やかな黄褐色~赤橙色。近縁種との詳細な比較研究が専門家により行われている。今回の調査で、従来の知られていた蓋井島以外に一里山で記録された。下関市外では長門市でも見つまっている (増野, 未発表)。山口県 RDB では絶滅危惧 II 類。

4. ヤマトニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1861 (図版 I-5a-c) (陸産)

【記 録】六連島, 1989-XII-26, 2exs.; 彦島老町・老の山公園, 2019, 2exs., 松田真紀子; 2022-VII-26, 1ex.; 彦島福浦町・金比羅公園, 2022-VII-26, 1ex.; 金比羅町・金比羅宮, 2019-VIII-1, 3exs., 松田真紀子; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-24, 1ex.; 椋野町・一里山公園, 2022-VII-5, 1ex.; 2022-VII-18, 7exs.; 藤ヶ谷・霊鷲山, 2022-VII-5, 1ex.; 長府侍町・大唐櫃山, 2022-VIII-29, 4exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-22, 1ex.; 福江林・福江八幡宮, 2022-V-17, 1ex.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 4exs.; 吉見・竜王山, 2022-V-17, 1ex.; 吉母・大河原 (沿道斜面), 2022-II-27, 1ex.; 吉母・御崎, 2022-II-27, 1ex.; 吉母・毘沙ノ鼻 (沿道斜面), 2022-II-27, 1ex.; 永田郷 (峠), 2022-III-15, 1ex.; 赤間宮, 1956-IX, 2exs., 多田武一, 萩博物館所蔵 (標本 No. 1097) .

【備 考】各地の落葉下に普通に生息し, 里山から山地まで生息域は広い. 殻径 20 mm, 殻高 18 mm ほどの茶褐色の円錐形の殻で, 角質の薄い蓋をもつ. 本土のみならず島嶼部にも広く生息する.

5. アツブタガイ *Cyclotus campanulatus* Martens, 1866 (図版 I-6a-c) (陸産)

【記 録】六連島, 1989-XII-26, 3exs.; 2017-VIII-17, 10exs.; みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 1ex.; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2022-VIII-29, 5exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 2exs.; 椋野町・一里山公園, 2022-XI-7, 1ex.; 2022-VII-18, 2exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2016-IX-7, 1ex.; 永田郷 (峠), 2022-III-15, 3exs.; 吉見・竜王山, 2022-V-17, 2exs.; 吉見下尾袋・竜王山登山口, 2022-IV-27, 1ex..

【備 考】各地の落葉下に生息し, 里山から山地まで生息域は広い. 殻径 14 mm, 殻高 10 mm ほどの低い円錐形の殻で, 厚い石灰質の蓋をもつ. 今回の調査では 8 ケ所から記録した. 前種のヤマトニシと本種は, 蓋を持つ陸産貝類としては大型で県下各地の落葉下に生息するが, 同じく大型で県下各地の落葉下に生息し, 尖り帽子状の角質の蓋をもつ種・ヤマクルマガイ *Spirostoma japonicum* (A. Adams, 1867) が死殻も含め 1 個体も記録できなかった. 生息が極めて少ない可能性がある.

6. サドヤマトガイ *Japonia sadoensis* Pilsbry & Y. Hirase, 1903 (図版 I-7a-c) (陸産)

【記 録】高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 1ex..

【備 考】殻径 5 mm, 殻高 6 mm ほどの円錐形で, 薄質でもろい殻. 殻の体層に毛状の殻皮が 2 列生える. 螺層は約 5 層でよく膨らむ. 殻色, 殻毛の色ともに黒褐色. 殻口はほぼ円形, その縁は肥厚しない. 角質の薄い蓋をもつ. 林床の落葉中に生息するが, 殻表面に泥が付着していることが多く採集が難しい. 関東以西の本州, 四国, 九州北部に分布. 中国地方では, 鳥取県・島根県・岡山県で記録されているが, 各地とも生息地は局限され生息密度は極めて小さい. 常緑樹林の落葉下でやや乾燥した場所を好む. 県内での記録は, 上関町, 光市 (旧大和町), 岩国市, 萩市, 下関市豊浦町・菊川町と少ない. 今回の調査では, 南部の霊鷲山の 1 カ所, 1 個体のみの記録である. 環境省 RDB では準絶滅危惧, 山口県 RDB では絶滅危惧 IA 類.

7. ミジンヤマトニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900) (図版 I-7a-c) (陸産)

【記 録】みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 1ex.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 2exs.; 長府安養寺・覚苑寺山, 2022-V-17, 1ex.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 1ex.; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-X-14; 2022-VI-22, 27exs.; 2022-VI-23, 1ex.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 23exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 13exs.; 永田郷 (峠), 2022-III-15, 1ex.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 6exs..

【備 考】山地の落葉下に生息する. 殻径 2 mm, 殻高 1.2 mm ほどの殻で円い蓋を持ち, 白色透明な殻で, ヤマトニシを著しく小さくしたような形をしている. 今回の調査では 9 カ所と広範囲で記録し, 個体数も多かった.

ゴマガイ科 Family Diplommatinidae

8. キュウシュウゴマガイ *Diplommatina tanegashimae kyusyuensis* Pilsbry & Y. Hirase, 1904 (図版 I-8) (陸産)

【記 録】 六連島, 1989-VII-26, 2exs., 藤原廣治, 山口県立山口博物館所蔵 (所蔵 No. YPYMZ-Mo-2868) ; 1989-XII-26, 4exs.; 2017-VIII-17, 132exs.; 2022-VIII-10, 6exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 4exs.; 長府珠の浦町・珠の浦 2 号公園, 2022-VI-2, 38exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 11exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-22, 5exs.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 4exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 4exs.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 4exs.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 1ex..

【備 考】 山地の落葉下に生息する殻径 1.5 mm, 殻高 3 mm ほどの, 紡錘形をした右巻きの微小貝。殻表面には細かい縦肋が並ぶ。殻色は淡い橙色で, 胡麻のように小さいことから名付けられた。県内各地に見られ, 今回の調査でも 9 カ所で記録し個体数も比較的多い。

9. ヒダリマキゴマガイ *Palaina pusilla* Martens, 1877 (図版 I-8) (陸産)

【記 録】 蓋井島, 2022-IV-9, 75exs..

【備 考】 山地の落葉下に生息する殻径 1 mm, 殻高 2 mm ほどの, 紡錘形をした左巻きのゴマガイ類。県内での記録は岩国市, 山口市, 萩市, 美祢市と少なく, 下関市では豊田町での記録があるにすぎない。中国地方では, その分布に偏りがある。今回, 島嶼部の蓋井島で多数の個体を記録した。山口県 RDB では絶滅危惧 II 類。

タニシ科 Family Viviparidae

10. マルタニシ *Cipangopaludina cf. laeta* (Martens, 1861) (図版 I-9) (淡水産)

【記 録】 彦島西山町, 1989-VI, 藤原廣治; 蒲生野 (水田・用水升), 2022-VII-22, 13exs.; 秋根上町 (用水路), 2022-VI-3, 2exs..

【備 考】 水田や湿地, 水路や小川などの年間を通して水の涸れない場所に生息する。成貝は殻高 50 mm をこす丸い円錐形の殻をもつ。殻表面には, 微細な毛束が抜け落ちた後にできる刻点列状の彫刻がある。近年, 水田整備が進み, 湿地や谷津田などの生息適地が減少した。かつては各地に普通だったが, 現在では限られた場所にしかみられなくなった。今回の調査では 2 ヶ所の用水路や水田から記録した。溜池なども精査すれば, 生息地は増えると推察される。彦島での記録は, 故藤原氏の 30 年以上も前の記録である。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB では準絶滅危惧。

カワニナ科 Family Semisulcospiridae

11. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859) (図版 II-4a-7b) (淡水産)

【記 録】 蓋井島, 1988-XII-25, 6exs.; 蓋井島 (学校付近用水路), 2022-IV-9, 13exs.; 彦島西山町, 1989-VI, 藤原廣治; 蒲生野 (水田・用水升), 2022-VII-22, 8exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-23, 4exs.; 秋根上町 (用水路), 2022-VI-3, 2exs.; 吉母江良 (用水路), 2022-II-12, 5exs.; 吉見中町 (小河川), 2022-IV-27, 7exs.; 永田郷 (永田川河口), 2022-III-15, 8exs.; 永田郷 (永田川上流), 2022-III-15, 3exs.; 吉見上・奥畑 (西田川河口), 2022-III-15, 4exs.; 吉見上・奥畑 (西田川上流), 2022-III-15, 5exs.; 吉見新町 (用水路), 2022-IV-27, 2exs..

【備 考】 殻は殻高 20 ~ 50 mm で, 黒褐色の紡錘形。殻頂部に近い殻表面には弱い縦肋, 周縁から殻底にかけて螺条脈がある。各地の河川や用水路に普通。“清流にすみ, ゲンジボタルの餌となる貝”としてきれいな水にすむ生き物として扱われるが, むしろ人里や市街地に近い小河川や水路など, 有機質を多分に含む環境を好む傾向がある。今回の調査では各地の用水路や小河川で確認された。流水中にすむ個体は殻頂部が破損していることが多く, 止水域や流れの緩やかな場所では殻頂部が残る個体が見られる。雌

雄異体で、雌が幼貝を直接産出する卵胎生。カワニナの殻形は、流水等の物理的な力により殻頂部が欠けたり、殻のカルシウム分が溶出して脆くなり、欠損する個体が多い。雌の体内に保有された胎児殻を摘出し、成貝とともに図版に示した。今回の調査では、殻表面に粗い肋をもつツリメンカワニナ *S. reiniana* (Brot, 1876) は記録できなかった。

#### クビキレガイ科 Family Truncatellidae

12. ヤマトクビキレガイ（キュウシュウクビキレガイ） *Truncatella pfeifferi* Martens, 1861（図版 II-11）（陸産）

【記 録】六連島, 2016-X-14, 2exs., 松田真紀子; 武久町・武久海岸, 2016-IX-7, 3exs., 松田真紀子; 吉母・吉母海水浴場, 2016-IV-14, 1ex., 松田真紀子; 吉見・古宿海岸, 2016-XI-11, 3exs., 松田真紀子; 吉母・大河原海岸, 2016-XI-10, 1ex., 松田真紀子; 吉見・串本岬, 2022-IV-27, 38exs..

【備 考】殻高 5～8 mm になり、殻質は比較的堅固。細長い棍棒状の殻形であるが、殻頂部が成長とともに欠落し、成体のほとんどは円筒形になる。殻色は黄白色から淡い橙色で、体層に多数の縦肋がある。県内では海岸や河口の礫間隙、高潮線付近の湿った礫岩や植物片、ゴミなどの下で見られる。夏季には礫岩を裏返すと、ヘソカドガイなどとともに多数の生貝が観察される。冬季にはより深い礫間隙に潜る。

#### カワザンショウガイ科 Family Assimineidae

13. クリイロカワザンショウ *Angustassiminea castanea* (Westerlund, 1883) (図版 II-13a-c)（汽水産）

【記 録】永田郷（永田川河口）, 2022-III-15, 3exs..

【備 考】殻高 4～7 mm ほどの円錐形。螺管は膨れず、殻形外観は直線的である。縫合のすぐ下に 1本の細い螺状溝がある。殻色は濃い赤褐色で、殻表面は光沢がある。河口や海水の影響のある中州ヨシ原など、やや高潮帯に生息する。今回の調査では、永田川河口の用水路に見られた。環境省 RDB では準絶滅危惧。

14. サツマクリイロカワザンショウ *Angustassiminea satsumana* (Habe, 1942) (図版 II-14a-c)（汽水産）

【記 録】六連島, 2016-X-14, 1ex., 松田真紀子; 2022-VIII-10, 1ex.; 吉見・古宿海岸, 2016-XI-11, 2exs., 松田真紀子; 吉見・串本岬（海岸ガレ場）, 2022-IV-27, 20exs..

【備 考】殻高 3 mm 前後。クリイロカワザンショウに似るが、小形で殻質は薄い。殻色は透明感のある黄褐色から赤みのある茶褐色で光沢がある。内湾奥の河口中州のヨシ原、海岸に打ち上げられた流木や海藻中にみられる。県内各地の海岸で確認されている。今回の記録は、いずれも海岸の礫間隙で記録したものである。

15. ヒラドカワザンショウ（ダテカワザンショウ） *Assiminea hiradoensis* Habe, 1942 (図版 III-1a-c)（汽水産）

【記 録】永田郷（永田川河口）, 2022-III-15, 8exs..

【備 考】殻高 6 mm 前後。カワザンショウガイ *A. japonica* Martens, 1877 に比べて、縫合の陥入が浅く、殻の外観は直線的で殻頂部がほとんど残り、より背の高い円錐形に見える。殻色は黄褐色から橙色、周縁に色帯がある。内湾奥部の河口ヨシ原や礫岩の間隙で見られる。今回の調査では、永田川河口の用水路底泥で記録した。

16. ホラアナミジンニナ *Moria nipponica* (Mori, 1937) (図版 III-2a-c)（淡水産）

【記 録】吉母・御崎（小溪流）, 2022-II-27, 2exs.; 吉見・吉見峠（中腹・溪流）, 2022-V-3, 3exs..

【備 考】山間溪流の水につかる小石や落葉裏に生息する。殻径 1 mm 弱、殻高 1.5 mm ほどの紡錘形を

した淡水産貝。美祿市美東町大田にある石灰洞穴の出口付近で発見（黒田・波部, 1957）され、かつてはアキヨシホラアナミジンナ *Moria akiyoshiensis* Kuroda & Habe, 1958 と呼称された。現在では各地に生息するホラアナミジンナのシノニム（同種異名）とされている（岡藤, 1977）。本種は肺吸虫の中間宿主であり（岡藤・初鹿, 1979）、医学分野からも注目された。今回の記録では2カ所から記録した。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類、山口県 RDB では準絶滅危惧。

17. ヘソカドガイ *Paludinellassiminea japonica* (Pilsbry, 1901) (図版 III-3) (陸産)

【記 録】 蓋井島北海岸（角ヶ崎側斜面）, 2022-IV-9, 15exs.; 吉母・大河原海岸, 2017-IX-4, 松田真紀子; 吉母・海水浴場, 2022-II-27, 1ex..

【備 考】 殻径 4 mm, 殻高 6 mm ほどの円錐形をした巻き貝で、殻色は赤褐色。臍孔が明瞭で、臍孔周囲に強い角ができるのでこの名称がある。海浜の自然林や藪の縁から高潮帯にかけて、落葉や堆積物の下に生息する。県内各地に生息する。次種オオウスイロヘソカドガイと混同されるが、臍孔の開閉具合とその周囲にできる角の強弱により識別できる。今回の調査では、吉母海岸や蓋井島の海岸で記録した。

18. オオウスイロヘソカドガイ *Paludinellassiminea tanegashimae* (Pilsbry, 1924) (図版 III-1a-c) (陸産)

【記 録】 六連島, 1989-XII-26, 3exs.; 2016-X-14, 1ex., 松田真紀子; 蓋井島, 2016-I-16.; 蓋井島北海岸（角ヶ崎側斜面）, 2022-IV-9, 3exs.; 武久町・武久海岸, 2016-IX-7, 2exs., 松田真紀子; 吉母・海水浴場, 2016-II-26, 1ex., 松田真紀子; 吉母・大河原海岸, 2016-IV-22, 2exs., 松田真紀子; 吉母・眼ノ崎, 2016-III-12, 5exs., 松田真紀子.

【備 考】 殻径 5 mm, 殻高 8 mm ほどの円錐形の殻をもつ。前種に似るが一回り大きく、殻色は淡い橙黄色。螺塔が高く、体層の周縁が弱く角張る。臍孔は狭く隙間状であり、臍孔周囲の角は弱い。岩礁地の高潮帯の礫間隙や堆積物の下に生息する。県内各地に生息する。今回の調査では、国道 191 号線に沿った海岸部や六連島、蓋井島の海岸で記録した。

エゾマメタニシ科 Family Bithyniidae

19. ヒメマルマメタニシ *Gabbia kiusuensis* (S. Hirase, 1927) (図版 III-3) (淡水産)

【記 録】 蓋井島, 2016-I-16, 2exs.; 蒲生野（水田・用水升）, 2022-VII-22, 15exs.; 蒲生野・妙蓮寺（水田）, 2022-VIII-16, 6exs.; 吉母・県道 245 号沿道（用水路）, 2022-VII-22, 3exs.; 吉見下尾袋・龍王神社（水田）, 2022-VIII-16, 2exs..

【備 考】 各地の水田や池沼などに生息する、殻径 4 mm, 殻高 6 mm ほどの小さなタニシの形をした巻き貝。県内の分布は局所的で、主に湿地や干拓地の多い瀬戸内側の柳井地域や山陽小野田地域にみられる。内陸部では旧徳地町（福田, 1990; 1995; 福田, 2002）、県西部の下関市豊田町（増野・川野, 2017）、豊浦町（増野・川野, 2020）、菊川町（増野・川野, 2021）での記録がある。旧下関市東部では北部の内日地域で、数カ所確認した（増野・川野, 2022）。今回、蒲生野や吉見・吉母地域と蓋井島の水田で記録した。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類、山口県 RDB では準絶滅危惧。

有肺目 Order Pulmonata

モノアラガイ科 Family Lymnaeidae

20. ヒメモノアラガイ *Orientogalba ollula* (Gould, 1859) (図版 III-7a, b) (淡水産)

【記 録】 彦島西山町, 1989-VI, 藤原廣治; 蓋井島（学校付近用水路）, 2022-IV-9, 3exs.; 長府侍町・もみじ幼稚園（池）, 2022-VIII-29, 2exs.; 蒲生野・山田（用水路）, 2022-VI-2, 2exs.; 蒲生野（水田・用水升）, 2022-VII-22, 1ex.; 蒲生野・妙蓮寺（水田）, 2022-VIII-16, 3exs.; 吉母・江良（用水路）, 2022-II-12, 1ex.; 吉母・県道



245号沿道（用水路）, 2022-VII-22, 14exs.; 吉見中町（小河川）, 2022-IV-27, 3exs.; 永田郷①（水田）, 2022-VII-22, 1ex.; 永田郷②（水田）, 2022-VII-22, 20exs..

【備考】殻径 15 mm, 殻高 10 mm ほどの円錐形をした巻き貝。池沼, 流れの緩やかな水路や水田などの止水域を好んで生息する。各地に分布するが, 類似した外来種も帰化している。同所的にみられるモノアラガイ *Radix japonica* (Jay, 1857) と比べて, 殻口が狭く, 螺塔が全体に高くなる。殻表面は光沢がある。一对の触角は三角形で, 触角の基部の内側に眼点がある。今回の調査では, 各地の水田や用水路から多数記録した。

#### 21. ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say, 1817) (図版 III-8) (淡水産)

【記録】長府侍町・もみじ幼稚園（池）, 2004-VII-18, 5exs., 矢野重文； 2022-VIII-29, 3exs..

【備考】殻径 6 mm, 殻高 10 mm ほどで, 殻口の高さが殻高の半分ほどになり, 前種ヒメモノアラガイに比較して螺塔が高く伸び, 殻口縁が大きく広がるモノアラガイと比較すると, その広がりや縦に長い。殻表面には微細な成長脈および密な螺条脈がある。殻質は薄く黄褐色である。狭い臍孔がある。原産地などは不詳であるが, 外来種である（増田・内山, 2004）。今回の調査では 1 カ所から記録した。

### サカマキガイ科 Family Physidae

#### 22. サカマキガイ *Physella acuta* (Draparnand, 1805) (図版 III-9) (淡水産)

【記録】六連島, 2022-VIII-10, 5exs.; 蓋井島, 1988-XII-25, 3exs.; 蓋井島（学校付近用水路）, 2022-IV-9, 4exs.; 彦島西山町, 1989-VI, 藤原廣治；長府侍町・もみじ幼稚園（池）, 2022-VIII-29, 2exs.; 蒲生野（水田・用水升）, 2022-VII-22, 11exs.; 蒲生野・妙蓮寺（水田）, 2022-VIII-16, 20exs.; 蒲生野・山ノ奥（堤）, 2022-VI-23, 6exs.; 蒲生野・山田（用水路）, 2022-VI-2, 14exs.; 福江・八貫堤, 2022-V-17, 7exs.; 吉母・江良①（用水路）, 2022-II-12, 1ex.; 吉母・江良②（用水路）, 2022-II-12, 2exs.; 吉母・県道 245 号沿道（用水路）, 2022-VII-22, 10exs.; 吉見中町（小河川）, 2022-IV-27, 2exs.; 永田郷①（水田）, 2022-VII-22, 2exs.; 永田郷②（水田）, 2022-VII-22, 6exs.; 永田郷③, 2022-VII-22, 4exs..

【備考】各地の水田や池沼, 用水路などにみられる。殻径 6 mm, 殻高 10 mm ほどの紡錘形で, 左巻きである。右巻きのモノアラガイやヒメモノアラガイの触角が三角形をしているのに対し, 本種は細長い鞭状をしていて異なる。ヨーロッパ原産の外来種とされ（増田, 2002）, 県内各地でみられる。在来のモノアラガイやヒメモノアラガイに比べて水の汚染に強く, 多少環境の悪い排水路などでも生息がみられる。今回の調査では, 島嶼部も含めて, 旧市内西部の広い地域で記録した。

### ヒラマキガイ科 Family Planorbidae

#### 23. ヒラマキミズマイマイ *Gyraulus chinensis spirillus* (Gould, 1859) (図版 III-10a-c) (淡水産)

【記録】蒲生野（水田・用水升）, 2022-VII-22, 6exs.; 蒲生野・妙蓮寺（水田）, 2022-VIII-16, 1ex.; 吉母・県道 245 号沿道（用水路）, 2022-VII-22, 37exs.; 吉見下尾袋・龍王神社（水田）, 2022-VIII-16, 5exs..

【備考】水田の用水路や溜池などの水草に生息する。殻径 5 mm, 殻高 1.5 mm ほどの扁平な円盤状をした殻をもつ。殻を横からみると周縁が丸くなるタイプとやや角張るタイプの二型が見られる。また, 本種に酷似するトウキョウヒラマキガイ *G. tokyoensis* (Mori, 1938) がいるが, 周縁が角張り, その微隆起上に毛状の殻皮がある。かつては各地の池や堤の水草に普通に見られたが, 近年, 観察できる機会が少なくなった。同じ環境にすむヒラマキガイモドキやクルマヒラマキガイとは周縁や殻全体の形から識別は容易である。ミズコハクガイ *G. soritai* Habe, 1976 にも似るが, 本種の螺塔部分が弱く窪むのに対し, ミズコハクガイは緩やかに高まる。今回の調査でもわずか 4 ケ所で記録したにすぎず, 著しく減少している。環境省 RDB では情報不足。

24. ヒメヒラマキミズマイマイ *Gyraulus* sp. (MS) (図版 III-10a-c) (淡水産)

【記録】 蓋井島, 1988-XII-25, 2exs.; 蓋井島 (学校付近水田), 2022-IV-9, 3exs..

【備考】 殻径 1.9 mm, 殻高 0.6 mm ほどの, 極めて小形の円盤状をした殻をもつ巻き貝。前種ヒラマキミズマイマイに似るが, 殻径が 2 mm 前後とはるかに小さく, その割に螺層数は 3.5 層と多い。殻形が前種に似ていることから, 誤同定されていることがあり, 各地でヒラマキミズマイマイとされている個体の再検討が必要である。県内での記録は少なく, 田布施町, 萩市, 美祢市 (石灰洞窟内の堆積物中) からの記録があるのみである。今回記録する蓋井島の個体は, 30 年以上前に採集され, ヒラマキミズマイマイと同定されていた個体の見直しにより, 本種と再同定されたものである (増野, 2020)。今回, 再調査により 3 個体を採集したが, かつての水田は耕作放棄地と化し, 生息環境が大きく変わり絶滅状況にあった。全国では各地から採集されているが, 福岡県では近年初記録される (亀井ほか, 2022) など個体数は少ない。タイプ標本の見直し等が行われて学名に関して再考されようとしている (Saito *et al.*, 2020)。環境省 RDB では絶滅危惧 IB 類, 山口県 RDB では情報不足。

25. クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ) *Helicorbis* cf. *cantori* (Benson, 1850) (図版 III-11a-c) (淡水産)

【記録】 蒲生野 (水田・用水升), 2022-VII-22, 22exs.; 蒲生野・妙蓮寺 (水田), 2022-VIII-16, 1ex.; 吉見下尾袋・龍王神社 (水田), 2022-VIII-16, 1ex..

【備考】 水田の用水路や池沼の水草に生息する。殻径 8 mm, 殻高 2 mm ほどの扁平な円盤状をした殻をもつ。殻を横からみると殻頂部はわずかに窪み, 周縁の底角は著しく角張り, 底面はほぼ平坦になる。殻色は淡い黄色または赤褐色で光沢がある。県内での記録は県東部の柳井・平生地域, 山口市, 宇部・山陽小野田地域と, 瀬戸内側の低湿地に限定されていた。下関市内では, 20 年以上前に豊浦町黒井での記録 (Hori *et al.*, 1996) があり, 県西部での唯一の記録だった。近年の調査で, 豊浦町, 菊川町, 旧下関市東部 (内日・吉田地域) など広く生息することが報告されている (増野・川野, 2020; 2021; 2022)。今回の調査で, 吉見, 蒲生野地域に広がる水田に生息していることが明らかになった。環境省 RDB, 山口県 RDB ともに絶滅危惧 II 類。

26. ヒラマキガイモドキ *Polyptylis hemisphaerula* (Benson, 1842) (図版 IV-1a-c) (淡水産)

【記録】 蒲生野・妙蓮寺 (水田), 2022-VIII-16, 10exs..

【備考】 水田の用水路や池沼の水草に生息する。殻径 5 mm, 殻高 2 mm ほどの扁平な円盤状をした殻をもつ。殻を横からみると台形をしており, 底側には殻を透かして数本の帯状の内彫刻が確認できる。今回の調査では, 蒲生野地域の水田の 1 カ所のみで記録した。環境省 RDB では準絶滅危惧。

オカミミガイ科 Family Ellobiidae

27. ハマシイノミガイ *Melampus nuxeastaneus* Kuroda, 1949 (図版 IV-4) (汽水産)

【記録】 吉母・海水浴場, 2016-II-26, 1ex., 松田真紀子; 吉母・大河原海岸, 2016-IV-22, 2exs., 松田真紀子。

【備考】 殻高 15 mm, 殻径 10 mm 前後で, シイの実の形をした海産・汽水域の貝である。関東・北陸地方以南に広く分布する。海岸や波当たりの強い河口の岩礁帯やコンクリート護岸の隙間などに生息する。殻質は厚く, 臍孔は閉じる。外唇縁は肥厚しないが, やや内側が白く肥厚し, 5~6 歯をもつ。今回の調査では, 吉母海岸や大河原海岸の消波ブロック上で記録した。

後鰓亜綱 Class Opisthobranchia

柄眼目 Order Stylommatophora

アフリカマイマイ科 Family Achatinidae

28. オカチョウジガイ *Allopeas kyotoense* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904) (図版 IV-6) (陸産)

【記 録】六連島, 1989-XII-26, 3exs.; 2017-VIII-17, 3exs.; 2022-VIII-10, 2exs.; 蓋井島, 1988-XII-25, 3exs.; 彦島迫町・地域公園, 2019-VII-2, 1ex., 松田真紀子; 2022-VII-26, 1ex.; 彦島老町・老の山公園, 2022-VII-26, 5exs.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 2exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 1ex.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 3exs.; 長府珠の浦2号公園, 2022-VI-2, 1ex.; 長府侍町・大唐櫃山中腹, 2022-VIII-29, 1ex.; 蒲生野・竹生寺山, 2022-VI-2, 2exs.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 6exs.; 吉母・御崎, 2022-II-27, 3exs.; 永田郷(峠), 2022-III-15, 2exs.; 吉母・吉母富士中腹, 2022-II-27, 1ex.; 吉母・大河原(沿道斜面), 2022-II-27, 1ex.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 1ex..

【備 考】人家周辺や里山の草地などに普通にみられる。殻高 10 mm ほどの細長い紡錘形の貝。殻は淡褐色で光沢がある。生貝の軟体部は濃い黄色を呈する。類似種にホソオカチョウジガイ, サツマオカチョウジガイ, ヌウドオカチョウジガイ類似種, マルオカチョウジガイ *A. brevispira* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904) 等がいるが、殻頂部から体層にかけての膨らみや殻全体のプロポーションに差異がある。今回の調査では、成貝、生体を含み 17 カ所で記録した。

29. ホソオカチョウジガイ *Allopeas pyrgula* (Schmacker & Böttger, 1891) (図版 IV-7) (陸産)

【記 録】六連島, 2022-VIII-10, 14exs.; 蓋井島・山の神入口, 2022-IV-9, 1ex.; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2022-VIII-29, 4exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 1ex.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-5, 3exs.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 1ex.; 吉見古宿町・天狗乃宮, 2022-IV-27, 4exs.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 13exs..

【備 考】殻径 2.3 mm 弱, 殻高 7 mm ほどでオカチョウジガイの仲間では最も小さく、殻全体が細く尖る。殻色は淡い褐色になる。里山の林床落葉下や建造物周囲の瓦礫の間隙等に生息する。県内各地で見られるが個体数は少ない。今回の調査では 8 カ所から、それぞれ複数個体の記録で生息密度は高かった。

30. ヌウドオカチョウジガイ類似種 *Allopeas cf. heudei* (Pilsbry, 1906) (図版 IV-8) (陸産)

【記 録】蓋井島, 1988-XII-25, 4exs.; 2016-I-16, 3exs.; 2022-IV-9, 1ex.; 蓋井島・山の神入口, 2022-IV-9, 3exs.; 六連島(灯台付近), 2022-VIII-10, 1ex.; 竹ノ子島(北端海浜藪), 2022-VII-26, 1ex.; 長府珠の浦町(沿道藪), 2022-VI-3, 1ex.; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2022-VIII-29, 1ex.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 3exs..

【備 考】殻径 2.7 mm, 殻高 10 mm 程度でオカチョウジガイに類似するが、オカチョウジガイが殻頂部から体層にかけてふっくらしているのに対して、本種は殻頂からほっそりと体層にいたる。また、ホソオカチョウジガイほど細くはならない。生息環境は、里山というよりは山地性である。県内での記録は少ない。今回の調査では 7 カ所で記録し、島嶼部や海岸近くが多かった。

31. トクサオカチョウジガイ *Paropeas achatinaceum* (L. Pfeiffer, 1846) (図版 IV-9) (陸産)

【記 録】六連島, 2022-VIII-10, 1ex.; 蓋井島, 1988-XII-25, 10exs.; 蓋井島・鐘ヶ崎灯台, 2022-IV-9, 14exs.; 彦島老町・老の山公園, 2019-VI-25, 8exs.; 彦島迫町・地域公園, 2019-VII-2, 1ex., 松田真紀子; 竹ノ子島(北端海浜藪), 2022-VII-26, 10exs.; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2022-VIII-29, 5exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 3exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-5, 17exs.; 高畑・霊鷲山(遊歩道), 2020-VI-24, 2exs.; 長府珠の浦町(沿道藪), 2022-VI-3, 18exs.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 22exs.; 金比羅町・金比羅宮, 2019-VIII-1, 1ex., 松田真紀子; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 1ex.; 蒲生野・山田(水田), 2022-VI-2, 1ex.; 吉見古宿町・天狗乃宮, 2022-IV-27, 7exs.; 吉母・大河原(海水浴場), 2022-II-27, 19exs.; 吉母・大河原(沿道斜面), 2022-II-27, 2exs.; 永田郷(峠), 2022-III-15, 25exs.; 吉母・毘沙ノ鼻(沿道斜面), 2022-II-27, 2exs..

【備 考】殻径 3 mm, 殻高 11 mm ほどでオカチョウジガイに似る。殻はオカチョウジガイが殻頂部からふっくら膨らむのに対して、本種は殻頂部から比較的ほっそりとスマートに殻口に至る。殻表に粗い縦肋があり、光沢がない。生息環境は、人家周囲の草むらや里山など人の出入りのある林内の落葉中である。東南アジア原産の外来のオカチョウジガイ類である(黒田, 1958; 黒住, 2012)。山口県内各地に見られ、今回の調査では、調査対象範囲全域、20ヶ所から記録した。

### 32. オオクビキレガイ *Rumina decollata* (Linnaeus, 1758) (図版 IV-10) (陸産)

【記 録】吉見古宿町・天狗乃宮, 2022-V-3, 2exs.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 5exs..

【備 考】殻径 10 mm, 殻高 30 mm ほどで、殻頂部は成体では折れて破損する。本種は地中海地域原産の陸貝で、日本への移入は北九州市における確認が最初である(湊・魚住, 1991)。その後、山口県宇部市で定着・繁殖が確認され(増野, 1992)、ここ 30 年ほどのうちにほぼ山口県全域に拡大している(増野, 2022)。地中に潜り越冬し、産卵数も多い上に雑食性である。繁殖が雌雄による受精方法だけでなく、自家受精による繁殖も行う(松隈ら, 2006)。また、拡散が植木や花卉野菜などの人為的移動によることも、駆除を容易にできないことにつながっている。下関市内での拡散は、市街地や海岸部などで早期に確認されていた。人家周辺や家庭用菜園など個人的で小規模な場所が移入・繁殖場所となっており、今回の調査でも十分な調査ができなかった。生息状況の把握は、もっぱら情報の申し出に拠っている。今回 2カ所で記録した。

## タワラガイ科 Family Diapheridae

### 33. タワラガイ *Sinoennea iwakawa* (Pilsbry, 1900) (図版 IV-11) (陸産)

【記 録】みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 1ex.; 一の宮住吉・住吉神社, 2022-V-31, 1ex.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 3exs.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 1ex.; 吉母東条・若宮神社, 2022-II-12, 1ex.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 1ex.; 吉母・吉母富士中腹, 2022-II-27, 1ex..

【備 考】殻径 1.5 mm, 殻高 4 mm 前後で、紡錘形で米俵の形をしている。殻の各層にはやや斜めの細かい縦肋がある。山地の礫地の落葉下に生息するが多産はしない。肉食性で、死んだ貝殻から数個体がまとまって出てきたこともある。今回の調査では 7カ所で採集したが、いずれの産地でも個体数は少なかった。

## ナタネガイ科 Family Punctidae

### 34. ミジンナタネガイ *Punctum atomus* Pilsbry & Hirase, 1904 (図版 IV-14a-c) (陸産)

【記 録】長府珠の浦町・珠の浦 2 号公園, 2022-VI-2, 3exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-22, 1ex.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 13exs..

【備 考】殻径約 1.5 mm。大きさ、形ともに次種ハリマナタネガイに類似する。殻表面には成長肋はなく、拡大鏡でみると微細で密な成長脈がある。また、臍孔はあるが殻径に比べて狭く、ヒメナタネガイより小さい。県内での記録は少なく(岩国市, 周南市, 山口市, 美祢市; 2021 年 12 月現在)、下関市内では旧下関市東部を含め全域(増野・川野, 2017; 2018; 2020; 2021; 2022)での記録がある。今回の調査では 3ヶ所から記録した。

### 35. ハリマナタネガイ *Punctum japonicum* Pilsbry, 1900 (図版 V-1a-c) (陸産)

【記 録】蓋井島, 2022-IV-9, 22exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 4exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 1ex.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 3exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 4exs.; 吉母・御崎, 2022-II-27, 2exs..

【備 考】殻径約 1.5 mm で、ナタネガイの仲間の中では小形である。殻表面には弱い薄板状成長肋があ

るが、ヒメナタネガイに比べて滑らかである。周縁は丸く、臍孔は狭い。県内での記録はミジンナタネガイに比較して多く、各地で記録されている。今回の調査では6カ所で記録し、各産地とも個体数は多くない。

36. ツクシナタネガイ *Punctum morseanum* Pilsbry, 1902 (図版 V-2a-c) (陸産)

【記 録】安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 16exs.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 59exs..

【備 考】殻径 2 mm 強で周縁は円く、螺塔が高い。殻表面に弱い成長脈があり、その間に一定間隔に弱い成長肋がある。臍孔は小さい。林床の落葉土を篩いにかけて持ち帰り、実体顕微鏡下で採集した。今回の調査では2カ所から記録した。

37. ヒメナタネガイ *Punctum pretiosum* (Gude, 1900) (図版 V-2a-c) (陸産)

【記 録】高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 7exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-X-14; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 1ex.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 11exs.; 吉母・吉母富士中腹, 2022-II-27, 1ex..

【備 考】殻径 2.2 mm, 殻高 1.3 mm ほどで、ナタネガイ類では大形。この仲間はいずれも殻径が 2.5 mm 以下と極めて小さく、殻色も褐色で発見しにくい。採集はもっぱら、林床の土壌を持ち帰り篩に通した後、実体顕微鏡の下で行った。殻表面に斜めの薄板状の成長肋が目立つ。周縁角が強く、臍孔は広い。今回の調査では5カ所から記録した。

38. クルマナタネガイ *Punctum rota* Pilsbry & Hirase, 1904 (図版 V-3a-c) (陸産)

【記 録】六連島, 2017-VIII-17, 2exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 2exs.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 5exs.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 1ex.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 3exs..

【備 考】殻径 2 mm, 殻高 1 mm とやや大形である。殻色は淡褐色、殻表には斜めの薄板状の縦脈がある。周縁には弱い角があり、臍孔は狭い(矢野, 2016)。県内の記録は少なく、下関市では豊北町(増野・川野, 2018)、菊川町(増野・川野, 2021)、旧下関市東部(増野・川野, 2022)での記録がある。今回の調査では6カ所から記録した。

オカモノアラガイ科 Family Succineidae

39. ヒメオカモノアラガイ *Succinea lyrata* Gould, 1859 (図版 V-4) (陸産)

【記 録】蒲生野・妙蓮寺付近(側溝壁), 2022-VIII-16, 1ex..

【備 考】殻径 5 mm, 殻高 8 mm ほどで、殻口が大きく殻全体が大きく膨らむ。その割に螺塔は高くならない右巻きの貝。殻質は薄く半透明、黄褐色で光沢がある。長短2対の触角があり、長い方の先に目がある。庭園や水路の側溝などに生息する。県内での記録は少なく、今回の調査では蒲生野の水田用水用コンクリート升の壁に2個体を見つけたが、1個体のみの採集になった。

キセルガイモドキ科 Family Enidae

40. キセルガイモドキ *Mirus reinianus* (Kobelt, 1875) (図版 V-5a-c) (陸産)

【記 録】蓋井島(風車発電機跡), 2022-IV-9, 1ex..

【備 考】殻径 10 mm, 殻高 30 mm ほどの紡錘形をした巻き貝。キセルガイ類が左巻きの殻で、殻口内に歯(板)をもつのに対し、本種は右巻きで歯をもたない点で異なる。北海道(南部)、本州、四国、九州に広く分布する。そのために生息地の個体群において、貝殻の大きさや殻色などに地域変異がある。生息環境は、自然林内の倒木や樹幹などに生息する。県内には本種と比べて殻の膨らみが大きいフトキセルガイモドキ *M. japonicus* (Möllendorff, 1885) が生息する。県内での記録は少なく、今回の調査では島嶼部・蓋

井島で死殻1個体を採集した。島嶼部での記録は珍しい。山口県 RDB では準絶滅危惧。

#### ミジンマイマイ科 Family Valloniidae

41. マルナタネガイ *Pupisoma orcula* (Benson, 1850) (図版 V-5a-c) (陸産)

【記 録】安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 2exs.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 1ex..

【備 考】黒褐色をした球状円錐形で、殻径 2 mm, 殻高 2 mm ほどの微小な貝。柑橘類・広葉樹・ムクノキ・アオキなどの樹皮や葉裏に着生することが多い。次種ヒラドマルナタネガイと酷似するが、本種は臍孔が閉じるのに対し、ヒラドマルナタネガイは臍孔が広く深い点で識別できる。今回の調査では2カ所から記録した。

42. ヒラドマルナタネガイ *Pupisoma harpula* Reinhardt, 1886 (図版 V-5a-c) (陸産)

【記 録】一の宮住吉・住吉神社, 2022-V-31, 2exs..

【備 考】前種マルナタネガイと同じ環境に生息するが、樹上性でムクノキなどに着生する。殻径 1.7 mm, 殻高 2 mm ほどの球状円錐形をした巻き貝。臍孔が開く点で前種と異なる。今回の調査では1カ所で記録したのみで、個体数も少ない。

43. ミジンマイマイ *Vallonia costata* (Heude, 1882) (図版 V-6) (陸産)

【記 録】長府珠の浦町(林縁住宅地), 2022-VI-2, 1ex.; 吉見古宿町・天狗乃宮, 2022-IV-27, 1ex..

【備 考】殻径 2 mm, 殻高 1 mm で円盤状に巻く微小な貝。殻色は白色半透明で、表面に細かく強い縦肋が密にある。殻口は厚くなり反転する。広い臍孔をもつ。海岸性の陸貝で、ハマオモトなどの海浜植物の根元などに生息する。県内では日本海側の自然度の高い海岸にみられる。今回の調査では2カ所で記録したが、吉見地域の産地は海に隣接する場所である。もう一カ所の産地・長府珠の浦町は、開発された新興住宅地で土砂等とともに人為的に移入された可能性が高い。なお、山下(2002)、湊(2005)によると「日本産ミジンマイマイは、朝鮮半島・中国大陸のものと一緒にをなしており、欧米の *costata* とは別種」(Gerber, 1996) との考えを紹介している。現時点では、本州・四国・九州に分布し在来種とされている(湊, 1988; 東, 1995)。

44. ツヤミジンマイマイ *Vallonia pulchella* (O. F. Müller, 1774) (図版 V-6) (陸産)

【記 録】吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 20exs.; 2022-VII-22, 26exs..

【備 考】殻径 2 mm 前後、殻高 1 mm 前後の円盤状の巻き貝。前種ミジンマイマイと同じ仲間(*Vallonia* 属)で、殻色は白色半透明で、表面は細かい成長脈があり光沢をもつ。本種はヨーロッパ・北米に分布し多くの地域に移入されている(Forsyth, G., 1999; 山下, 2002)。日本では1980から1990年代後半にかけて多摩川などの河川敷で記録されている(山下, 2002)。その後、いくつかの場所で記録されているが、中部地方以西では確認されていないため、今回の記録が西日本での初記録となる(矢野重文私信, 2022.11.2)。こうした点から、今後、移入の方法等を含め検討の余地がある。現時点で本種は外来種の一つとされる。

#### キセルガイ科 Family Clausiliidae

45. シリオレギセル *Megalophaedusa bilabrata* (E. A. Smith, 1876) (図版 V-6) (陸産)

【記 録】永田郷(峠), 2022-III-15, 1ex..

【備 考】殻径 6 mm, 殻高 30 mm 弱の細長いキセルガイ類。殻頂部近くから折れ、欠損している個体が多い。殻縁は厚く白く、反転する。内唇の下部に数個の襞が弱くある。本州中部以西の各地に分布する。県内

は各地の山地の落葉下で見られる。山地性であるが、沿道に沿った斜面の藪で繁殖していることもある。今回の調査では永田郷の山中を越える峠の沿道藪で記録した。

#### 46. カワモトギセル *Megalophaedusa kawamotoi* (Kuroda & Taki, 1944) (図版 V-6) (陸産)

【記 録】 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 1ex.; 永田郷 (峠), 2022-III-15, 1ex..

【備 考】 殻径 4.8 mm, 殻高 20 mm 強の紡錘形をしたキセルガイ類。山口県の貝類研究者・河本卓介氏 (1900 ~ 1968) が、岩国市城山で発見し記載された (黒田・瀧, 1944)。タイプ産地の岩国市城山産の個体は、殻口の唇縁に細かなきざみ状の彫刻がみられる (湊ほか, 1999)。県西部の個体は、下関市産も含めて唇縁の特徴は現れない。山地の倒木の裏や落葉中に生息する。県内全域に生息するが、中国地方では広島・島根の両県、九州では宮崎・熊本・大分・福岡の各県で確認されている。今回の記録では 2 カ所から記録した。環境省 RDB, 山口県 RDB とともに絶滅危惧 II 類。

#### 47. シイボルトコギセル *Reinia sieboldii* (L. Pfeiffer, 1848) (図版 V-6) (陸産)

【記 録】 蓋井島, 1988-XII-25, 2exs.; 2016-I-16, 3exs.; 2006-IX-26, 2exs.; 蓋井島・鐘ヶ崎灯台, 2022=V-9, 8exs.; "蓋井島", 1963-VI, 1ex., 吉村美広; 長府安養寺町・覚苑寺, 2022-VII-7, 2exs.; 長府宮の内町・忌宮神社, 2022-VII-7, 2exs.; 1990-V-29, 2exs., 伊藤賢司; "長門忌宮神社", 不詳, 小田常太郎 (県立博物館所蔵, No. 313); "長府", 1956-V-16, 27exs., 不詳 (萩博物館所蔵); 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2015-VI-8, 3exs.; 2022-VIII-29, 4exs.; 幡生宮の下町・生野神社, 2019-VI-7, 2exs.; 金比羅町・金比羅宮, 2019-VIII-1, 松田真紀子; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-24, 2exs.; 金比羅町, 2019-VIII-1, 4exs., 松田真紀子; 一の宮住吉・住吉神社, 2019-VI-7, 3exs.; 2022-V-31, 2exs.; "一の宮神社", 1956-XI-13, 5exs., 多田武一 (萩博物館所蔵); "下関住吉神社", 5exs., 河本卓介 (県立博物館所蔵, No. 3067); "長門住吉神社", 12exs., 河本卓介 (県立博物館所蔵, No. 291); "長門一の宮住吉神社", 4exs., 河本卓介 (県立博物館所蔵, No. 4759); 安岡町・安岡八幡宮, 2019-VI-7, 3exs.; 福江林・福江八幡宮, 2020-VI-25, 1ex.; 吉見下尾袋・龍王神社, 2019-VI-7, 3exs.; 2020-VI-25.

【備 考】 海岸部や島嶼の林, 寺社の社叢や境内に残る古木の樹幹等に生息する樹上性のキセルガイ類。殻径 5 mm, 殻高 20 mm 弱で紫褐色の殻をもち, 神社の御神木や古木に生息することから, 長命・安全航海・弾丸除け等の守護とされてきた (河上ら, 1990)。下関市一の宮の住吉神社では, 境内の古木にすむ本種のレプリカをお守りとしていた。そのほかにも, 安産や早婚, 夜泣き治療などの呪いに使用されてきたという, 民俗学的にも興味のあるキセルガイ (煙管貝) である (河上ほか, 1990)。樹上性であり樹幹で細々と繁殖している。各地の寺社林の伐採や敷地内の整備等により林床が明るくなるなど環境変化による減少が懸念される。今回の調査では 12 カ所で確認した。県立博物館及び萩博物館所蔵の記録は貴重であり, 該当産地の現在の生息が確認できた。あらためて記録の重要性を知る機会となった。

#### 48. ヒロクチコギセル *Reinia variegata* (A. Adams, 1868) (図版) (陸産)

【記 録】 長府宮の内町・忌宮神社, 1990-V-5, 2exs.; 2022-VII-7, 2exs.; 一の宮住吉・住吉神社, 2019-VI-7, 4exs.; 2022-V-31, 1ex..

【備 考】 殻径 3 mm, 殻高 9 mm ほどの小形のキセルガイ類。殻は薄質で淡褐色。関東地方以西の本州, 伊豆諸島, 四国, 九州, 飛び石的に宮城県 (湊・川名, 2002) に分布し, いずれも海岸沿いに局所的に分布している。中国地方で記録があるのは山口県のみで, 県内の生息も極限しており, 現時点では日本海側の阿武町, 萩市の離島及び市内, そして下関市内と数カ所である。カエデ, イスノキ, クスノキなどの樹上性であり樹幹にわずかに見られる。今回の調査では, 2 カ所から記録した。環境省 RDB では絶滅危惧 I 類, 山口県 RDB では絶滅危惧 IB 類。

49. ナミギセル *Stereophaedusa japonica* (Crosse, 1871) (図版 V-7) (陸産)

【記 録】 蓋井島, 2016-I-16, 4exs.; 2022-IV-9, 6exs.; 彦島老町・老の山公園, 2019-VI-25, 7exs.; 2022-VII-26, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-5, 4exs.; 長府侍町・大唐櫃山, 2022-VIII-29, 1ex.; 長府珠の浦町(沿道藪), 2022-VI-3, 2exs.; 幡生宮の下町・生野神社, 2020-VI-24, 3exs.; 金比羅町・金比羅宮, 2019-VIII-1, 2exs., 松田真紀子; 一の宮住吉・住吉神社, 2019-VI-7, 2exs.; 2022-V-31, 1ex.; 南部町・下関市保健所(裏崖), 1963-VII-8, 10exs., 吉村美広(山口県立博物館所蔵)。

【備 考】 各地の里山や市街地の草地, 落葉下に生息する殻径 7 mm, 殻高 25 mm ほどの中形のキセルガイ類。人家周辺にも生息し, 比較的なじみのあるキセルガイ類である。今回の調査では山地や島嶼部の林内だけでなく, 市街地に公園として残る林内でも確認でき, あわせて 8 カ所から記録した。県立博物館の記録として「市内南部町」があるが, 今から 60 年近く前, 市内中心地に生息した貴重な記録である。

50. モリヤギセル *Stereophaedusa moriyai* (Kuroda & Taki, 1944) (図版 V-8) (陸産)

【記 録】 蒲生野・深坂自然の森, 2017-II-6, 9exs.; 2022-VI-22, 5exs..

【備 考】 殻径 8 mm, 殻高 30 mm 前後のふっくらとした紡錘形のキセルガイ類。広島県北部をタイプ産地とし, 中国地方全域及び四国西部に分布する。基亜種のオキギセル *S. vasta* (Böttger, 1877) が九州に分布し, 山口県がその境界となっている。かつて山口県産はオキギセルとされていた(藤原, 1972)が, 腔襞の数が少ないこと, 生殖器の盲管が受精囊柄部よりも長い点などから, 山口県産は本種とされた(湊, 1974; 湊, 1994)。しかし, 秋吉台からはオキギセルの特徴をもつ複数個体の生息が報告されている(増野, 2014)。今回の調査では, 1 カ所でのみの記録であった。環境省 RDB, 山口県 RDB とともに準絶滅危惧種。

51. ナミコギセル *Tauphaedusa tau* (Böttger, 1877) (図版 IV-9) (陸産)

【記 録】 みもすそ川町・火の山, 2022-VII-5, 9exs.; 金比羅町・金比羅宮, 2019-VIII-1, 1ex., 松田真紀子; 2022-V-27, 2exs.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-24, 8exs.; 幡生宮の下町・生野神社, 2020-VI-24, 1ex.; 吉見永田本町・永田神社, 2022-IV-27, 13exs.; 「一の宮住吉神社」, 採集日不詳, 1ex., 河本卓介(県立博物館所蔵, No. 325)。

【備 考】 殻径 3.5 mm, 殻高 10 ~ 15 mm ほどの紡錘形をした小形のキセルガイ。殻全体が比較的ほっそりし, 殻口部の上板, 下板の発達弱い。軟体部は暗褐色であることが多い。人家周辺や神社社叢の草むらや樹幹に見ることができる。近縁のキュウシュナミコギセル *T. subaculus* (Pisbry, 1902) も県内に生息しているようだが, 両種の識別はむずかしい。今回記録した個体は 5 カ所である。詳細な同定は今後の課題とする。近年, 県内各地から記録しているが, これまでに 6 市・町(山陽小野田市, 宇部市, 長門市, 美祢市, 和木町, 下関市: 2022 年 12 月現在)に分布している。なお, 県立博物館の「一の宮住吉神社」の記録は, 実標本は確認していない。殻の形態が酷似するスグヒダギセルとの混生もあり, 2 種を誤同定する可能性もある。

52. スグヒダギセル *Zaptyx strictahuna* (Böttger, 1877) (図版 V-10) (陸産)

【記 録】 六連島, 1989-XII-26, 5exs.; 2017-VIII-17, 12exs.; 2022-VIII-10, 3exs.; 蓋井島, 1988-XII-25, 4exs.; 2016-I-16, 1ex.; 蓋井島・鐘ヶ崎灯台, 2022-IV-9, 24exs.; 蓋井島北側海岸(角ヶ崎斜面), 2022-IV-9, 20exs.; 彦島老町・老の山公園, 2019-VI-25, 26exs.; 2022-VII-26, 1ex.; 彦島迫町・地域公園, 2019-VI-25, 1ex.; 2022-VII-26, 5exs.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2019-VI-25, 5exs.; 2022-VII-26, 1ex.; 竹ノ子島(北端海浜藪), 2022-VII-26, 13exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 2exs.; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2015-VI-8, 1ex.; 2022-VIII-29, 24exs.; 高畑・霊鷲山(遊歩道), 2020-VI-24, 松田真紀子; 2020-VI-24, 20exs.; 長府侍町・大唐櫃山, 2022-VIII-29, 1ex., 松田



真紀子；長府珠の浦町（沿道藪），2022-VI-3, 4exs.；長府宮の内町・忌宮神社，2022-VII-7, 1ex.；“長府”，1956-V-16, 27exs.，多田武一（萩博物館所蔵，No. 1486）；棕野町・一里山公園，2019-XII-10, 2exs.，松田真紀子；2022-VII-5, 7exs.；2022-VII-18, 3exs.；金比羅町，2019-VIII-1, 2exs.，松田真紀子；金比羅町・金比羅宮，2019-VIII-1, 6exs.，松田真紀子；2022-VI-24, 1ex.；金比羅町・金比羅公園，2022-VI-23, 35exs.；2022-VI-24, 9exs.；幡生宮の下町・生野神社，2019-VI-7, 5exs.；2020-VI-24, 1ex.；一の宮住吉・住吉神社，2019-VI-7, 3exs.；2022-V-31, 3exs.；安岡町・安岡八幡宮，2019-VI-7, 7exs.；2022-V-31, 24exs.；福江林・福江八幡宮，2020-VI-25, 14exs.；蒲生野・竹生寺，2022-VI-2, 1ex.；吉見古宿町・天狗乃宮，2022-IV-27, 14exs.；吉見下尾袋・龍王神社，2019-VI-7, 7exs.；2020-VI-25, 5exs.；吉母本町・黒嶋観音，2022-II-12, 7exs.；2022-VII-22, 3exs.；“吉母黒嶋観音の森”，1964-VIII-4, 多数，河本卓介（県立博物館所蔵，No. 295），吉母・大河原（沿道斜面），2022-II-27, 31exs.；吉母・大河原（海水浴場），2022-II-27, 22exs.；吉母・大河原海岸，2017-IX-4, 2exs.，松田真紀子；2017-IX-25, 2exs.，松田真紀子；吉母・大河原，1997-VII-30, 中村康博；1997-VIII-29, 中村康博；永田郷（峠），2022-III-15, 1ex.；吉母東条・若宮神社，1964-VIII-1, 10exs.，藤原廣治（県立博物館所蔵，No. YPYMZ-Mo-2929），“吉母”，1964-VIII-4, 河本卓介（県立博物館所蔵，No. 2581）。

**【備考】** 殻径 3.5 mm 殻高 15 ~ 20 mm ほどの紡錘形をしたキセルガイ類。里山の倒木や寺社の古木，山林の落葉下などに生息する。人家近くの藪の中に集団でみられることがある。かつては山口県西部に分布する個体をナガトギセル *Clausilia subaurantiaca* Pilsbry, 1900（タイプ産地：“Deyai, Nagato” 長門・出合），県東部に分布するものをハリマギセル *C. (Hemiphaedusa) harimensis* Pilsbry, 1901（タイプ産地：“Kashima, Harima” 香島・播磨）（Pilsbry, 1901）としていたが，現在ではスグヒダギセルのシノニム（同種異名）としてまとめられている（湊，1994）。今回の調査では，32カ所で記録した。また，1956年の萩博物館収蔵標本は「ナガトギセル」として同定されていた。現在，スグヒダギセルと包括されている個体群が，専門家によってDNA分析されており結果が待たれる。なお，陰茎内壁の壁の特徴から，スグヒダギセル類の中でもナガトギセルが明確に識別可能であるとの見解があり（宮崎，2020），この知見を基に福岡県内からのナガトギセルの生息確認の報告もある（宮崎・増野，2022）。

#### ナメクジ科 Family Philomycidae

##### 53. ナメクジ *Meghimatium bilineatum* (Benson in Canter, 1842) (図版 X-4) (陸産)

**【記録】** 彦島本村町・老の山公園，2022-VII-26, 1ex.；高畑・霊鷲山（遊歩道），2020-VI-24, 2exs.；長府安養寺・覚苑寺，2022-VII-7, 1ex.；幡生宮の下町・生野神社，2019-VI-7, 1ex.；一の宮住吉・住吉神社，1988-V-3, 1ex.；蒲生野・県道 245 号沿道（堤排水口縁），2022-VIII-16, 2exs.；吉見古宿町・天狗乃宮，2022-V-3, 1ex.；吉母東条・若宮神社，2022-IV-27, 1ex.

**【備考】** 在来のナメクジ類で，軟体部が淡い灰褐色をし，淡い茶褐色の二本の筋がある“フタスジナメクジ”とも呼ばれている（澤島・ほか，2018）。体長約 30 mm ほど。人家や庭園などの湿った所に生息し，野菜や草花などを食害する。各地に見られるが，最近では背面に甲羅をもつ外来種のチャコウラナメクジの方に馴染みがある。今回の調査では 8カ所から記録した。

##### 54. ヤマナメクジ *Meghimatium fruhstorferi* (Collinge, 1901) (陸産)

**【記録】** 蓋井島，1988-XII-25, 1ex.；彦島老町・老の山公園，2022-VII-26, 1ex.；幡生宮の下町・生野神社，2019-VI-7, 1ex.；安岡町・安岡八幡宮，2019-VI-7, 1ex.

**【備考】** 体長が 100 mm 以上にもなる大形のナメクジ類。灰褐色～茶褐色の軟体で，軟体部の両側と中央に暗色の縦帯がある。各地に生息し，里山や山地内の倒木の裏や洞にひそんでいる。今回の調査では，4カ所から記録した。

コウラナメクジ科 Family Limacidae

55. チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* (Férussac, 1822) (陸産)

【記 録】吉母・大河原海岸, 1997-VII-30, 中村康博; 吉母・大河原海水浴場, 1997-VIII-10, 1ex., 山下博由; 吉母・大河原, 1997-VII-30, 中村康博; 安岡・富任町, 1997-I-20, 8exs., 斎藤みよ子; 綾羅木・川中本町, 1997-I-20, 9exs., 斎藤みよ子; 彦島本村町, 1997-IV-14, 5exs., 登根邦彦, 1997-IV-19, 4exs., 登根邦彦; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2015-VI-8, 3exs.; 福江林・福江八幡宮, 2020-VI-25, 2exs.; 吉見古宿町・天狗乃宮, 2022-V-2, 1ex.; 吉見新町・宮地獄神社, 2022-IV-27, 1ex.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 1ex..

【備 考】軟体部は茶褐色で体長は 30 ~ 50 mm. 背面に 2 本の縦線があり, 頭部に続いた前半部分に甲羅を埋包した肉塊がある. この肉塊を開くと, 石灰質の薄い甲羅を摘出することができる. 人家周辺の植え込みの中, 植木鉢やプランターの裏など, 時には家の中まで侵入して困ることもある. ヨーロッパ原産の外來種 (山口・波部, 1958) であり, 今日, 駆除対策のナメクジというと本種をさす場合が多い. 今回の調査では 5 ケ所の記録であったが, 市街地を中心に広く, 普通に生息しているはずである.

コハクガイ科 Family Gastrodontiidae

56. コハクガイ *Zonitoides arboreus* (Say, 1817) (図版 V-11a-c) ((陸産)

【記 録】みもすそ川町・火の山, 2014-XI-28, 1ex., 川野敬介; 一の宮住吉・住吉神社, 2022-V-31, 1ex.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 4exs.; 2022-VII-22, 9exs..

【備 考】殻径 5 mm, 殻高 2.5 mm ほどで, 螺塔の低い円盤状をしている. 臍孔が大きく, 周縁は丸い. 殻色は黄褐色で光沢がある. 軟体部は淡い灰色, 大触角は黒みがる. 殻がベッコウマイマイ類に近似しており, 見誤る場合がある. 人家周辺や畑地, プランターや植木鉢の下など, 乾燥しやすい場所にも生息する. 原産地が北米の移入種 (東, 1995). 県内では市街地を中心に各地での記録があり, 下関市内では豊田町 (増野・川野, 2017), 豊北町 (増野・川野, 2018), 旧下関市東部の乃木浜総合公園 (増野・川野, 2022) で採集されている. 今回の調査で 3 カ所から記録した.

エゾエンザイガイ科 Family Pristilomatidae

57. ヒメコハクガイ *Hawaiia minuscula* (Binney, 1841) (図版 V-11a-c) ((陸産)

【記 録】安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 1ex..

【備 考】殻径 2.5 mm 内外, 殻高 1.1 mm 内外の円盤状の微小貝. 螺層はおよそ 3 1/2 層, 殻表は微細な成長脈があり平滑である. 螺塔は極めて低平である. 臍孔が大きく, 周縁は丸い. 生息環境は比較的乾燥した落葉中. 今回記録した神社叢も林床は乾燥しており, 堆積落葉中より 1 個体のみ採集した. 本種は前種コハクガイとともに, 「日本の外來種リスト (暫定版)」(国立環境研究所) で外來種とされている.

シタラ科 Family Euconulidae

58. ツノイロヒメベッコウ *Ceratochlamys ceratodes* (Gude, 1900) (図版 V-12a-c) ((陸産)

【記 録】六連島, 2017-VIII-17, 16exs.; 2022-VIII-10, 4exs.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 10exs.; みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 3exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 21exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 39exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-II-6, 1ex.; 2022-VI-22, 1ex.; 2022-VI-23, 14exs.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 1ex..

【備 考】殻径 5 mm, 殻高 3.5 mm 内外の低円錐形の貝. 林内の落葉下や草本群落中に生息する. 淡い黄褐色で強い光沢がある. 周縁に強い角をもち, その上に溝があり突き出る. 臍孔は閉じる. 成貝は殻形からナミヒメベッコウ *Yamatochlamys vaga* (Pilsbry & Hirase, 1904) と誤同定することがあるが, 周縁に強い角および溝をもつことで区別できる. 今回の調査では, 8 カ所で記録した.

59. ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877) (図版 VI- 1a-c) (陸産)

【記 録】六連島, 2017-VIII-17, 18exs.; 2022-VIII-10, 6exs.; 蓋井島, 2022-IV-9, 4exs.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 9exs.; 彦島老町・老の山公園, 2022-VII-26, 25exs.; 彦島迫町・地域公園, 2022-VII-26, 18exs.; 彦島田の首町・下関南霊園, 2022-VII-26, 7exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 23exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 24exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 15exs.; みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 4exs.; 長府珠の浦町・珠の浦2号公園, 2022-VI-2, 8exs.; 長府安養寺・覚苑寺山, 2022-V-17, 2exs.; 長府侍町・大唐櫃山中腹, 2022-VIII-29, 15exs.; 一の宮住吉・住吉神社, 2022-V-31, 4exs.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 5exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-X-14, 5exs.; 2022-VI-22, 6exs.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 1ex.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 21exs.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 18exs.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 7exs.; 永田郷(峠), 2022-III-15, 1ex.; 吉母東条・若宮神社, 2022-II-12, 3exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 13exs.; 吉母・吉母富士中腹, 2022-II-27, 6exs..

【備 考】殻径 2 mm 弱, 殻高 1 mm の低平な円錐形の殻をもつ。各地の林内落葉下に生息する。殻は半透明で淡黄褐色を呈し, 光沢がみられる。臍孔は閉じる。ヤクシマヒメベッコウに類似するが, 殻径が同じくらいの個体で本種と比較すると殻がやや高く, 螺層の間隔が狭く, 螺層数の多いものが本種である。殻径が同じくらいの大きさでも殻高が低く, 螺層の間隔が広がっている個体をヤクシマヒメベッコウとし, 識別の目安としている。今回の調査では 24 カ所から記録し, 各産地とも個体数が多かった。

60. ヤクシマヒメベッコウ *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry, 1902) (図版 VI- 2a-c) (陸産)

【記 録】蓋井島, 2022-IV-9, 6exs.; 彦島老町・老の山公園, 2022-VII-26, 4exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 6exs.; 長府侍町, もみじ幼稚園, 2013-II-22, 1ex., 松田真紀子; 一の宮住吉・住吉神社, 2022-V-31, 3exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 21exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-22, 1ex.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 1ex.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 7exs.; 吉母東条・若宮神社, 2022-II-12, 2exs..

【備 考】殻径 2.5 ~ 3 mm, 殻高 1.3 mm ほどの低平な円錐形の殻をもつ。各地の林内落葉下に生息する。殻色は淡黄褐色をして光沢がある。臍孔は閉じる。ヒメベッコウに似るが, 本種の方が一回り大きく成長する。識別の目安として, 幼貝の時は螺層の間隔が広く, 相対的に螺塔が低くなる。今回の調査では 10 カ所で記録した。

61. コガタシロヒメベッコウ *Discoconulus* sp. (MS) (早瀬・西(邦雄)新称, 2016) (図版 VI- 3a-c) (陸産)

【記 録】六連島, 2022-VIII-10, 1ex.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 1ex..

【備 考】殻径 2 mm 前後の低平で円盤状をしたヒメベッコウ類。落葉堆積下に生息する, 微小な貝。殻色に特徴があり, 淡い乳白色で透明, 光沢がある。全国各地で見つかっている(矢野, 2019)が, 正式には記載されていない。新称がつけられ(早瀬ほか, 2016; 西・西, 2018), 現在専門家により研究が行われている。今回の調査で 2 カ所で記録し, それぞれ死殻 1 個体を採集した。過去において萩市, 阿武町, 旧下関市東部の 3 カ所の記録がある(増野・川野, 2022)。

62. キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A.Adams, 1868) (図版 VI- 4a-c) (陸産)

【記 録】蓋井島, 1988-XII-25, 3exs.; 2016-I-16, 1ex.; 彦島老町・老の山公園, 2022-VII-26, 8exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 7exs.; みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 1ex.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 8exs.; 長府珠の浦町・珠の浦2号公園, 2022-VI-2, 8exs.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 3exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 15exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-II-6, 1ex.; 2022-VI-22, 1ex. 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 1ex.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 2exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 9exs..

【備 考】各地の林内の落葉下にすむ殻径 2.3 mm, 殻高 1.8 mm ほどの微小貝である。螺塔の高い円錐形で巻き数が多い。螺層の間隔が狭いので、他の微小貝との識別は容易である。体層周縁に角があり、殻底は弧状となる。殻表面はなめらかで光沢がある。今回の調査では 12 ケ所で記録し、いずれの産地でも個体数が多かった。

63. キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1902) (図版 VI- 3a-c) (陸産)

【記 録】みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 1ex.

【備 考】各地の林内落葉下に生息する、殻径 5 mm, 殻高 3 mm ほどの低い円錐形の貝。殻表面はやや赤褐色を呈し、ガラス質のような光沢ではなく、暗く鈍い光沢がある。ルーペで殻表をみると弱い波状の成長脈がある。臍孔は閉じる。生息は極めて少なく、今回の調査では火の山山頂付近で、1 個体のみ記録した。環境省 RDB では情報不足。

64. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901) (図版 VI- 5a-c) (陸産)

【記 録】竹ノ子島(北端海浜藪), 2022-VII-26, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2014-XI-28, 1ex., 川野敬介; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 1ex.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 3exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 1ex.; 吉母・大河原海岸, 2017-IX-4, 1ex., 松田真紀子。

【備 考】林内の落葉下に生息し、殻径 2 mm, 殻高 3 mm ほどの微小な貝。淡い黄褐色で丸みのある円錐形をしている。体層の周縁は丸みのある角を形成するがキール状にはならない。臍孔は小さく開く。カサキビやヒメカサキビの幼貝に似るが、螺層に丸みがある点で区別ができる。県内での記録は少ない。今回の調査では 6 カ所の記録で、採集個体数もあわせて 7 個体である。

65. ウスイロシタラガイ *Parasitala pallida* (Pilsbry, 1902) (図版 VI- 6a-c) (陸産)

【記 録】彦島迫町・地域公園, 2022-VII-26, 1ex.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 1ex.; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-II-6, 1ex.; 2017-X-14, 1ex.; 2022-VI-23, 1ex.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 1ex.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 20exs.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 4exs.

【備 考】里山近くの灌木の葉裏や落葉中にみられる殻径 2.5 mm 強, 殻高 2 mm ほどの微小貝である。次種マルシタラガイに似るが、殻全体が一回り小さい。殻表は淡い黄褐色で、殻頂部は白色である。殻は周縁が丸く、殻質は薄く脆い。微小な臍孔がある。県内に広く生息すると考えられるが、記録は少ない。今回の調査では 6 カ所で記録した。

66. マルシタラガイ *Parasitala reinhardti* (Pilsbry, 1900) (図版 VI- 6a-c) (陸産)

【記 録】棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 71exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-X-14, 3exs.; 2022-VI-22, 3exs.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 1ex.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 1ex.

【備 考】林内のアオキなどの常緑広葉樹の葉裏に付着していることが多い。殻径 5 mm, 殻高 3.5 mm ほどの丸みのある円錐形で淡黄白色。薄質半透明で光沢がある。微小な臍孔がある。幼貝では周縁角が強く、成貝では周縁が丸くなり、一見別種に見える。成貝の殻形は前種ウスイロシタラガイに似るが一回り大きく、丸い周縁に弱い角が現れる。生息地は市街地近くの里山というよりは、山中の林床落葉下となる傾向がある。今回の調査では、4 カ所から記録した。

67. コシタカシタラガイ *Sitalina circumcincta* (Reinhardt, 1883) (図版 VI- 7a-c) (陸産)

【記 録】六連島, 2017-VIII-17, 12exs.; 2022-VIII-10, 2exs.; 蓋井島, 1988-XII-25, 4exs.; 2022-IV-9, 27exs.; 彦島老町・

老の山公園,2022-VII-26, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 5exs.; みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 2exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 25exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 32exs.; 長府安養寺・覚苑寺山, 2022-V-17, 1ex.; 長府珠の浦町・珠の浦2号公園, 2022-VI-2, 1ex.; 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-22, 1ex.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 3exs.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 4exs.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 3exs.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 8exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 1ex..

【備考】林内の落葉中に生息し、殻径2 mm、殻高2.5 mmほどの螺塔の高い円錐形の殻をもつ。各層に5～6条の螺条脈があり、体層には角をもつ。本州、四国、九州に分布する。県内では各地の林床に普通に生息する。今回の調査では15カ所で記録し、各産地とも個体数は多かった。

68. ウメムラシタラガイ *Sitalina japonica* (Kuroda & Miyanaga, 1943) (図版 VI-8a-c) (陸産)

【記録】彦島田の首町・下関南霊園, 2022-VII-26, 4exs.; 彦島迫町・地域公園, 2022-VII-26, 8exs.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 4exs.; 彦島老町・老の山公園, 2022-VII-26, 11exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 3exs.; 長府侍町・大唐櫃山中腹, 2022-VIII-29, 6exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 13exs.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 7exs..

【備考】林内の落葉中にすみ、殻径1.8 mm、殻高1.2 mmほどで、やや低い円錐形。体層の周縁に3本の殻皮質板状褶を有する螺状脈（矢野, 1990）がある。薄く半透明で、灰白色の殻色。臍孔は狭く開く。県内では各地で見ることができるとは、個体数は多くない。今回の調査では9カ所で記録した。環境省RDBでは準絶滅危惧。

69. ヒラシタラガイ *Sitalina latissima* (Pilsbry, 1902) (図版 VI-8a-c) (陸産)

【記録】蓋井島, 2022-IV-9, 12exs..

【備考】殻径2.3 mm、殻高1.5 mmほどで低い円錐形をしている。前種ウメムラシタラガイに似るが、底面が広く一回り大きい。体層周縁に数本の弱い殻皮質板状褶を有する螺状脈（矢野, 1990）がある。縫合は浅く、螺層は弱い。県内での記録は市内豊北町に続いて2例目である（増野・川野, 2018）。今回の調査では、蓋井島でのみ記録した。環境省RDBでは絶滅のおそれのある地域個体群。

70. カサキビ *Trochochlamys crenulata* (Gude, 1900) (図版 VI-9a-c) (陸産)

【記録】六連島, 2022-VIII-10, 1ex.; 彦島老町・老の山公園, 2022-VII-26, 2exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 2exs.; みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 1ex.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 8exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 4exs.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 5exs.; 一の宮住吉・住吉神社, 2022-V-31, 1ex.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 1ex.; 吉母・大河原海岸, 2016-IV-22, 1ex., 松田真紀子。

【備考】殻径3 mm、殻高4 mmほどの円錐形の微小貝である。殻頂部が鋭角で、殻頂から周縁にかけてほぼ直線的な円錐形。体層周縁にはキール状の角がある。林内の落葉下に生息する。本州、四国、九州に分布し、県内各地に普通。今回の調査では10カ所から記録した。

71. オオウエキビ *Trochochlamys fraterna* (Pilsbry, 1900) (図版 VII-1a-c) (陸産)

【記録】高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 1ex.

【備考】林内の落葉下に生息し、殻径2 mm、殻高3 mmほどの微小な貝。淡い黄褐色で丸みのある円錐形をしている。体層の周縁角はキール状で鋭い。臍孔は小さく開く。カサキビやヒメカサキビの幼貝に似るが、螺層に丸みがある点で区別できる。県内の記録は少ない。今回の調査では霊鷲山での1個体のみの記録である。環境省RDBでは情報不足。

72. ツシマナガキビ *Trochochlamys longissima* (Pilsbry & Hirase, 1909) (図版 VII- 1a-c) (陸産)

【記 録】 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 2exs..

【備 考】 殻径 2 mm, 殻高 4 mm ほどの微小貝。螺塔が著しく高い円錐形で、体層周縁に角がある。林内の落葉下に生息するが、局所的である。タカキビ *Coneuplecta praealta* (Pilsbry, 1902) に酷似するが、殻全体がふっくらしたタカキビに対して、本種はほっそりした円錐形である。下関市豊田町で記録した個体が本種として確認された最初である(増野・川野, 2017) が、その後、萩市で採集された個体についても精査の結果、本種に同定された。こうした点から、県内で過去採集されタカキビとして同定された個体、例えば美祢市(増野, 1989) の個体もツシマナガキビの可能性が高い。今回の調査で、竜王山から採集された個体も殻の特徴から本種と同定した。環境省 RDB では準絶滅危惧、山口県 RDB では絶滅危惧 II 類。

73. ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata* (Pilsbry, 1901) (図版 VII- 1a-c) (陸産)

【記 録】 六連島, 2017-VIII-17, 16exs.; 2022-VIII-10, 4exs.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 1ex.; 彦島迫町・地域公園, 2022-VII-26, 5exs.; 彦島老町・老の山公園, 2022-VII-26, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 5exs.; みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 2exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 4exs.; 長府珠の浦町・珠の浦 2 号公園, 2022-VI-2, 5exs.; 長府安養寺・覚苑寺山, 2022-V-17, 2exs.; 長府侍町・もみじ幼稚園, 2013-II-22, 1ex., 松田真紀子; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 4exs.; 一の宮住吉・住吉神社, 2022-V-31, 74exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 8exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-X-14, 2exs.; 2022-VI-22, 1ex.; 2022-VI-23, 4exs.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 9exs.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 12exs.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 1ex.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 4exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 2exs.; 吉母・吉母富士中腹, 2022-II-27, 1ex..

【備 考】 森林の落葉中に生息する殻径 3 mm, 殻高 2.2 mm ほどの微小貝である。低円錐形で極めて薄質である。殻表は微細な糸状縦脈と不明瞭な螺状脈が現れ、光沢がない。殻頂角が大きく、殻は全体としてカサキビに比較して低い。周縁角はキール状で鋭い。県内の各地に生息する。今回の調査では 20 カ所で記録した。環境省 RDB では準絶滅危惧。

74. ナミヒメベッコウ *Yamatochlamys vaga* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904) (図版 VII- 1a-c) (陸産)

【記 録】 六連島, 1989-XII-26; 2017-VIII-17, 2exs.; 2022-VIII-10, 29exs.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 1ex..

【備 考】 林内落葉下に生息する殻径 4 mm, 殻高 3 mm ほどで、濃い褐色をした円錐形の貝。殻表面は光沢がある。周縁には弱い角がある。臍孔は閉じる。市内では豊北町の島嶼部・角島や本土側に生息している(増野・川野, 2018)。かつて萩市の沖合 45 km に浮かぶ見島に、固有種ミシマヒメベッコウ *Y. v. adamsi* Kuroda & Kawamoto, 1956 が生息しているとされたが(河本・田邊, 1956)、豊北町産ナミヒメベッコウと殻形態及び軟体部の比較検討が行われ、本種のシノニムとされた(湊ら, 2018)。その後、生体サンプルを基に遺伝子によるさらなる検討が、専門家によってなされている。“ナミヒメベッコウ、”とは言うものの、本種の県内での生息は極めて少ない。今回の調査で 2 カ所から記録した。

75. オオクラヒメベッコウ *Yamatochlamys lampra* (Pilsbry & Hirase, 1904) (図版 VII- 1a-c) (陸産)

【記 録】 彦島迫町・地域公園, 2016-IX-6, 2exs., 松田真紀子; 2022-VII-26, 11exs..

【備 考】 殻径 4 mm, 殻高 3 mm ほどの低い円錐形の微小貝。殻色は淡い黄褐色で半透明、光沢がある。体層の周縁は丸い。林内落葉下に生息するが、個体数は極めて少ない。県内における記録は、上関町、岩国市、萩市、阿武町、山口市、美祢市と産地は少ない。今回の調査では 1 カ所記録したにすぎない。

ベッコウマイマイ科 Family Helicarionidae

76. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877) (図版 VII-2a-c) (陸産)

【記 録】 蓋井島, 1988-XII-25, 1ex.; 2016-I-16, 20exs.; 2022-IV-9, 4exs.; 彦島迫町・地域公園, 2020-I-6, 1ex.; 2022-VII-26, 6exs.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 15exs.; 彦島老町・老の山公園, 2022-VII-26, 7exs.; 彦島田の首町・下関南霊園, 2022-VII-26, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 11exs.; みもすそ川町・火の山山麓, 2022-VII-18, 2exs.; 高畑・霊鷲山, 2022-VII-5, 5exs.; 長府侍町・大唐櫃山中腹, 2022-VIII-29, 2exs.; 長府珠の浦町・珠の浦 2号公園, 2022-VI-2, 6exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 3exs.; 一の宮住吉・住吉神社, 2022-V-31, 1ex.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 2exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-23, 4exs.; 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 1ex.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 8exs.; 吉母東条・若宮神社, 2022-II-12, 1ex.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 1ex.; 永田郷(峠), 2022-III-15, 1ex.; 吉母・毘沙ノ鼻(沿道斜面), 2022-II-27, 1ex..

【備 考】 各地の林内落葉下に生息する, 殻径 7 mm, 殻高 3.5 mm ほどの低い円錐形の殻をもつ微小な貝。殻色は淡い黄褐色で表面には強い光沢がある。縫合に沿って白色の縁がある。殻底の中ほどは白くなる。臍孔は狭いが開く。本州, 四国, 九州に分布する。県内各地に普通にみられ, 今回の調査でも 20 カ所で記録した。

ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科) Family Camaenidae

77. ウスカワマイマイ *Acusta sieboldiana* (L. Pfeiffer, 1850) (図版 VII-3a-c) (陸産)

【記 録】 六連島, 1989-XII-26, 2exs.; 2017-VIII-17, 3exs.; 2022-VIII-10, 3exs.; 蓋井島, 1988-XII-25, 1ex.; 蓋井島・鐘ヶ崎灯台, 2022-IV-9, 4exs.; 彦島迫町・地域公園, 2019-VII-2, 1ex., 松田真紀子; 彦島老町・老の山公園, 2019-VI-25, 4exs.; 竹ノ子島(北端海浜藪), 2022-VII-26, 2exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 1ex.; 蒲生野(水田・用水升), 2022-VII-22, 2exs.; 永田郷(水田), 2022-VII-22, 1ex.; 吉見古宿町・天狗乃宮, 2022-IV-27, 1ex.; 2022-V-3, 2exs.; 吉見下尾袋・龍王神社, 2020-VI-25, 3exs. (目視); 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 1ex.; 吉母・大河原(海水浴場), 2022-II-27, 1ex..

【備 考】 各地の畑や荒地など比較的人家に近い場所に, 普通に生息する。草藪の根元に群れて生息する。乾燥に強く, 潮風を強く受ける海浜植物の根元などにもみられる。畑作物に食害を与えることがある。殻径 25 mm, 殻高 20 mm ほどの丸い円錐形の貝。和名のとおり殻が薄く, 成貝になっても殻口は肥厚反転しない。県内に広く生息する。江戸時代に長崎でオランダ商館の医師だったシーボルト Philipp Franz Balthasar von Siebold (1796-1866) に因んだ陸貝 2 種のうち, 本種の学名に彼の名前が入っている(湊, 1989)。もう 1 種はシーボルトコギセルである。今回の調査では, 13 ケ所で記録した。

78. ツシマケマイマイ類似種 *Aegista* sp. cf. *trochula* (A. Adams, 1868) (図版 VII-3a-c) (陸産)

【記 録】 彦島迫町・地域公園, 2022-VII-26, 1ex..

【備 考】 今回の調査では死殻 1 個体。殻径 11.2 mm, 殻高 7.8 mm で周縁に強い角をもつ, 中円錐形の巻き貝。殻形態からは *Aegista* 属のチクヤケマイマイ *A. aemula* (Gude, 1900), あるいはツシマケマイマイ *A. trochula* (A. Adams, 1868) と考えられる。いずれも林内の落葉下に生息する。チクヤケマイマイは県内では普通に見られるが, 県西部, 特に下関市では極めて少なくなる傾向がある(増野・川野, 2018)。一方, ツシマケマイマイはタイプ産地を対馬とし, 長崎市や九州各地で生息が記録されている(川内野, 2015; 湊ほか, 2018)。県内では豊北町での生息が記録されており(平野ら, 2016), 国内外来種と考えられている。また, 近年, 宇部市内でも生息が報告された(増野, 2022)。こうした事例から, 今回の彦島迫町での記録はツシマケマイマイの可能性も高い。ツシマケマイマイの特徴の 1 つに臍孔が狭く深くなり, 螺塔が高くなる点がある。この点からもツシマケマイマイの可能性がある。両種の軟体部は大きく異なることから, 剖検す

れば明瞭に判定できる。今回の調査では生成体を採集することができず、軟体部の形態を知ることができなかった。今回の報告では、ツシマケマイマイ類似種とし、結論は課題として残す。因みに今回の調査では、チクヤケマイマイの死殻は破片も含めて1個体も記録することができなかった。

79. キュウシュウシロマイマイ *Aegista eumenes* (Westerlund, 1883) (図版 VII-4a-c, 5a-c) (陸産)

【記 録】六連島, 1989-XII-26, 19exs.; 1989-VII-26, 3exs., 藤原廣治 (県立博物館所蔵, No. YPYMZ-Mo-3324); 2017-VIII-17, 10exs.; 2022-VIII-10, 3exs.; 蓋井島, 1988-XII-25, 15exs.; 2016-I-16, 13exs.; 蓋井島・二ノ神, 2014-I-16, 4exs.; 蓋井島 (風車発電機跡), 2022-IV-9, 13exs.; 彦島老町・老の山公園, 2019, 3exs., 松田真紀子; 彦島迫町・地域公園, 2022-VII-26, 1ex.; 彦島塩浜町・筋山公園, 2022-VII-26, 1ex.; 彦島田の首町・下関南霊園, 2022-VII-26, 1ex.; みもすそ川町・火の山, 2015-VI-8, 3exs.; 2022-VII-18, 1ex.; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2015-VI-8, 5exs.; 2022-VIII-29, 4exs.; 長府宮の内町 (塀壁), 2022-VII-7, 1ex.; “長府”, 採集日不詳, 2exs., 多田武一 (萩博物館所蔵, No. 1854); 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-23, 1ex.; 2022-VI-24, 1ex.; 高畑・霊鷲山 (遊歩道), 2020-VI-24, 5exs.; 安岡町・安岡八幡宮, 2019-VI-7, 2exs.; 2022-V-31, 5exs.; 福江林・福江神社, 2020-VI-25, 2exs.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 1ex.; 吉見尾袋・竜王山登山口, 2022-IV-27, 1ex.; 吉見・竜王山本宮, 2022-V-17, 1ex.; 吉見・竜王山中宮, 2022-IV-27, 1ex.; 吉見古宿町・天狗乃宮, 2022-V-3, 2exs.; 吉見・串本岬 (海岸藪), 2022-IV-27, 2exs.; “吉見”, 採集日不詳, 6exs., 河本卓介, 県立博物館所蔵, No.2717); 吉母東条・若宮神社, 2022-II-12, 1ex.; 2022-IV-27, 2exs.; 吉母・毘沙ノ鼻 (沿道斜面), 2022-II-27, 3exs.; 吉母・大河原 (沿道斜面), 2022-II-27, 7exs.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 1ex.; 吉母・御崎, 2022-II-27, 1ex.; 永田郷 (峠), 2022-III-15, 8exs..

【備 考】殻径 15 mm, 殻高 10 mm ほどの低円錐の形で、殻色が灰白色から淡褐色をした樹上性の貝である。北九州市平尾台や山口県秋吉台にある石灰岩の草原台地やその周囲の樹林を恰好の生息場所とする。本種の殻色には全面白色の個体に混じって、淡い赤褐色の色帯や殻底面全体が淡く染め分ける型など多様なタイプが見られる。タイプ産地は、北九州市門司である (“Mizu, Kiusiu”: Westerlund, 1883)。一方、殻底を染め分ける型は、和名をソメワケシロマイマイ *Trishoplita cretacea bipartita* (Pilsbry, 1990) として、タイプ産地を下関市吉見町 (旧: 豊西上村; “Toyonishikami, Nagato”; Pilsbry, 1990) として記載された。また、本種の生息の東限域は山口県中央部とされている (増野・鳥越, 2011)。これまでの県内での生息は、県西部は下関市豊北町神田岬付近を北限、美祢市美東町赤を東限、南限は宇部市常盤付近で、これらを結ぶラインであることが把握できている (増野・川野, 2020)。今回の調査のうち竜王山、金比羅公園で記録した個体は染め分け型であり、それ以外の産地では白色無帯型であった。ただし、安岡八幡宮では両型が混生していた。島嶼部も含めて 26 カ所で記録した。

80. フリーデルマイマイ *Aegista friedeliana* (Martens, 1864) (図版 VII-7a-c) (陸産)

【記 録】六連島, 1989-XII-26; 1989-VII-26, 1ex., 増野和幸 (県立博物館所蔵, No. YPYMZ-Mo-3297); 2017-VIII-17, 21exs.; 2022-VIII-10, 13exs.; 蓋井島, 1988-XII-25, 4exs.; 2014-VI-16; 2016-I-16, 6exs.; 蓋井島 (風車発電機跡), 2022-IV-9, 4exs.; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 5exs.; 彦島迫町・地域公園, 2022-VII-26, 2exs.; 彦島老町・老の山公園, 2019-VII-2, 3ex., 松田真紀子; 2022-VII-26, 2exs.; 椋野町・一里山公園, 2019-XII-10, 1ex., 松田真紀子; 2022-VII-18, 10exs.; みもすそ川町・火の山, 2022-VII-18, 1ex.; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2022-VIII-29, 8exs..

【備 考】生息環境は次種タキカワオオベソマイマイと同様で、林内の落葉中である。殻径 14 mm, 殻高 8 mm ほどの低円錐形をし、周縁は丸い。殻は濃い黄褐色で、表面には鱗片が密に並ぶ。臍孔は広いが、次種に比べて狭く深い。本種のタイプ産地は長崎近郊 (“Bei Nagasaki”: Martens, 1864) である。本種とタキカワオオベソマイマイの殻形態は酷似し、外見上で両種の識別はむずかしい。しかし、軟体部の一部の形



状が異なり、この形質を指標に同定した（報文準備中）。今回の調査で、島嶼部と壇ノ浦を臨む火の山一帯、これに続く一里山付近まで分布していることが分かった。本種を含む *Aegista* sp. に属する仲間が遺伝子手法を使って専門家により研究が進められている。

81. タキカワオオバソマイマイ *Aegista aperta* (Pilsbry, 1900) (図版 VII- 6a- c) (陸産)

【記 録】長府珠の浦町（沿道藪）, 2022-VI-3, 1ex.; 長府珠の浦町・珠の浦 2 号公園, 2022-VI-2, 4exs.; 藤ヶ谷・霊鷲山, 2022-VII-5, 3exs.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-24, 1ex.; 蒲生野・竹生寺, 2022-VI-2, 2exs.; 蒲生野・深坂自然の森, 2022-VI-22, 1ex.; 2022-VI-23, 1ex.; 吉見上・八幡宮, 2022-V-3, 1ex.; 吉見・竜王山中腹, 2022-V-17, 3exs.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 10exs.; “吉見”, 1964-VIII-4, 1ex., 三好和雄（県立博物館所蔵, No. 266）; 永田郷（峠）, 2022-III-15, 3exs.; 吉母東条・若宮神社, 2022-II-12, 1ex..

【備 考】里山から山地までの広い範囲の落葉中に生息する、殻径 15 mm、殻高 7 mm ほどの低平な円錐形の貝。殻は濃い黄褐色で堅牢な殻質である。臍孔は広く開く。殻全体はチクヤケマイマイ *A. aemula* (Gude, 1900) に似るが、チクヤケマイマイのように周縁に角はなく丸い。本種はタイプ産地が下関市吉見町（旧豊西上村）（“Toyonishikami, Nagato”: Pilsbry, 1900）で、旧下関市豊西上村出身の瀧川昇平（1976～1943）の採集標本を基に記載された（Pilsbry, 1900; 増野, 1990）。山口県内には、殻の大きさをはじめ殻形・殻表面・生殖器等に変異がある個体が生息し、各形質を比較検討するなど現在研究が進められている。かつては、山口県中・西部にタキカワオオバソマイマイが、県東部にコウベマイマイ *A. kobensis* (Schmacker & Boettger, 1890) が生息しているとされた（山口県, 2003）。旧下関市西部には本種が生息しているが、一部前種フリーデルマイマイが生息している。今回の調査で 11 カ所で記録した。山口県 RDB では準絶滅危惧。

82. コハクオナジマイマイ *Bradybaena pellucida* Kuroda & Habe in Habe, 1953 (図版 VII- 7a- c) (陸産)

【記 録】阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2022-VIII-29, 11exs.; 長府安養寺・覚苑寺, 2022-VII-7, 2exs.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-5, 14exs.; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-24, 3exs.; 永田郷（峠）, 2022-III-15, 6exs.; 吉母・御崎, 2022-II-27, 7exs..

【備 考】人家周辺の畑や沿道の草藪など、比較的市街地に生息する。淡黄褐色の薄い殻をもち、殻径 15 mm、殻高 8 mm ほどの低円錐形の貝。殻が薄いために軟体部が透けて見えるが、殻頂部にある肝臓の鮮やかな黄色が特徴的である。また、この鮮やかな黄色は蛍光色をもつことが知られている（Seki *et al.*, 2008）。個体によっては殻表面の周縁に赤褐色の色帯をもつものがある（増野, 1994）。本種は県内に広く分布する。今回の調査では、無帯個体を 6 カ所で記録した。

83. ツクシマイマイ *Euhadra herklotsi* (Martens, 1860) (図版 VII- 8a- c) (陸産)

【記 録】六連島, 1989-XII-26, 2exs.; 2017-VIII-17, 11exs.; 2022-VIII-10, 10exs.; 蓋井島, 1988-VI, 3exs., 清水満幸; 1988-XII-25, 2exs.; 2016-I-16, 12exs.; 2022-IV-9, 1ex.; 蓋井島・鐘ヶ崎灯台, 2022-IV-9, 2exs.; 蓋井島（風車発電機跡）, 2022-IV-9, 3exs.; 蓋井島・山の神入口, 2022-IV-9, 2exs.; “蓋井島”, 1953-III-30, 2exs., 日野巖（県立博物館所蔵, No. 2744）; 彦島福浦町・福浦金刀比羅宮, 2022-VII-26, 2exs.; 彦島迫町・地域公園, 2019-VI-25, 1ex., 松田真紀子; 2019-VII-2, 5exs., 松田真紀子; 2022-VII-26, 1ex.; 彦島老町・老の山公園, 2019, 1ex., 松田真紀子; 2022-VII-26, 1ex.; 長府安養寺・覚苑寺山, 2022-VII-7, 1ex.; “長府”, 1956-VIII-16, 3exs., 多田武一（萩博物館所蔵, No. 1848）; 阿弥陀寺町・赤間神宮裏山, 2022-VIII-29, 1ex.; 金比羅町・金比羅宮, 2019-VIII-1, 2exs., 松田真紀子; 金比羅町・金比羅公園, 2022-VI-24, 1ex.; “大坪向山”, 1954, 3exs., 多田武一（萩博物館所蔵, No. 1851）; 幡生宮の下町・生野神社, 2019-VI-7, 1ex.; “一宮神社”, 1956-XI-13, 2exs., 多田武一（萩博物館所蔵, No. 1850）; 蒲生野・深坂自然の森, 2017-II-6, 1ex.; 安岡町・安岡八幡宮, 2019-VI-7, 2exs.; 吉見・竜王山, 2022-V-17, 1ex.; 吉

見尾袋・竜王山登山口, 2022-IV-27, 1ex.; 吉見中町・かじや堤, 2022-IV-27, 1ex.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 5exs.; 吉母・大河原(沿道斜面), 2022-II-27, 3exs.; 吉母・大河原海岸, 2017-IX-25, 1ex., 松田真紀子; 吉母・毘沙ノ鼻(沿道斜面), 2022-II-27, 1ex.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 2exs.; 吉母東条・若宮神社, 2022-II-12, 1ex..

**【備考】** 里山や山地の林内に生息する, 殻径 40 mm, 殻高 25 mm ほどの大形低円錐形の貝。地上の落葉上をはっていることも多いが, 樹幹や枝に上っていることもある。県内に普通に生息する大形種には本種を含め, セトウチマイマイ, コベソマイマイの3種があり, その中でも最大級の殻をもつ。黄褐色の殻表面に黒色の色帯の有無など, 多様な殻色, 色帯を呈する。今回の調査では, 24カ所で記録した。

84. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (Kobelt, 1894) (図版 VIII- 1a-c) (陸産)

**【記録】** 竹ノ子島, 2022-VII-26, 1ex.; 長府安養寺・覚苑寺, 2022-VII-7, 1ex.; 長府宮の内町・忌宮神社, 2022-VII-7, 1ex.; 藤ヶ谷・霊鷲山, 2022-VII-5, 1ex.; 棕野町・一里山公園, 2022-VII-18, 1ex.; “一宮神社”, 1956-XI-13, 2exs., 多田武一(萩博物館所蔵, No. 1839); 安岡町・安岡八幡宮, 2022-V-31, 1ex..

**【備考】** 殻径 35 mm 前後, 殻高 25 mm 前後で中形の円錐形。淡褐色の殻色で, 弱い光沢がある。殻表面には黒色の色帯をもつものもいる。殻口は反転し, 臍孔はやや広い。里山や低山地の林内の樹上に生息する。本種は「県西部に移行すると生息密度が次第に小さくなり, 逆にツクシマイマイの生息が優勢になる」(増野・川野, 2021) との指摘があるように, 今回の調査では, 6カ所で, 各産地とも1個体の確認であった。本種とツクシマイマイとの識別は, 殻全体の形体(殻径/殻高)及び表面の成長脈の粗さ(粗・密)などに拠った。ちなみに剖検による軟体部の差異はみられなかった。なお, 既報(増野・川野, 2022)でもふれたが, 今回の記録の中の萩博物館収蔵個体は多田武一コレクションの中にある。

85. シメクチマイマイ *Satsuma ferruginea* (Pilsbry, 1900) (図版 VIII- 2a-c) (陸産)

**【記録】** 六連島, 2022-VIII-10, 2exs..

**【備考】** 殻径 17 mm, 殻高 12 mm ほどの体層の丸い, 中程度の円錐形の殻。殻色は淡褐色で, 弱い光沢がある。殻は反転し, 内側に小さな瘤が認められる。臍孔はやや狭い。里山や低山地の林内に生息する。県内各地で見られるが, 個体数は少ない。今回の調査では1カ所, 幼貝の記録であった。なお, 採集した幼貝の殻表面(殻皮)は鱗状の微小顆粒が配列していた。

86. コベソマイマイ *Satsuma myomphala* (Martens, 1866) (図版 VIII- 2a-c) (陸産)

**【記録】** 六連島, 1989-XII-26, 3exs.; 2017-VIII-17, 1ex.; 2022-VIII-10, 1ex.; 蓋井島, 1988-XII-25, 1ex.; 2016-I-16, 2exs.; 蓋井島・風力発電機跡, 2022-IV-9, 1ex.; 蓋井島・鐘ヶ崎灯台, 2022-IV-9, 1ex.; 彦島迫町・地域公園, 2020-I-6, 1ex., 松田真紀子; 長府安養寺・覚苑寺山, 2022-VII-7, 1ex.; 長府侍町・大唐櫃山, 2022-VIII-29, 1ex.; 幡生宮の下町・生野神社, 2019-VI-7, 1ex.; 安岡町・安岡八幡宮, 2019-VI-7, 1ex.; 吉見・吉見峠, 2022-V-3, 6exs.; 吉母・黒嶋観音, 2022-II-12, 1ex.; 吉母・毘沙ノ鼻(沿道斜面), 2022-II-27, 1ex..

**【備考】** 市街地周囲から山地まで広い範囲に生息する, 大形の陸貝である。殻径 30 mm, 殻高 25 mm ほどで, 周縁に濃褐色の細い色帯をもつ。殻色は黄褐色で鈍い光沢がある。幼貝の時は臍孔が開くが, 成長とともに閉じる。中部以西の本州, 四国, 九州に分布し, 県内各地に普通にみられる。本種は殻のサイズにおいて変異が著しく, 大小多様な個体が観察される。今回の調査では12ヶ所で記録したが, 個体数は少なかった。

二枚貝綱 Class Bivalvia

イシガイ目 Order Unionida

イシガイ科 Family Unionidae

87. ヌマガイ *Sinanodonta lauta* (Martens, 1877) (ドブガイ A 型) (図版 VIII- 3a, b) (淡水産)

【記 録】 吉見中町・かじや堤, 2022-IV-27, 5exs..

【備 考】 全国の池・湖沼・河川の止水域などに生息する二枚貝。かつてはドブガイ, ヌマガイ, タガイなどの別名で呼ばれていた。微妙な生息環境の違いによって形態変異も大きく, 区別が明確でないことから, “ドブガイ”として総称されていた(波部, 1990)。その後, 遺伝子型や繁殖期(田部ほか, 1994), グロキジュウムの微細形態などの差異(近藤ほか, 2006)によって, 複数の型が含まれていることが報告された。ヌマガイは殻長が短く膨らみが大きい(ドブガイ A 型)。タガイは細長く, 平たい傾向にある(ドブガイ B 型)とした(増田・内山, 2004)。その後, 近藤らは, 殻の長短, 膨らみの違いによる判別式を求め, 判定基準にすることを提案した(近藤ほか, 2011)。今回の調査で採集した個体は, いずれも破損, 破片個体で成貝の一部であったため, 成貝としての殻データを得ることができなかった。そのため暫定的に「殻長に対して殻幅が大きい」点に注目して本種と同定した。

88. ニセマツカサガイ *Inversunio yanagawensis* (Kondo, 1982)

【記 録】 吉見新町(用水路), 2020-IV-27, 7exs..

【備 考】 緩やかな流れのある河川の下流域や用水路, 溜池などの砂泥底にすむ殻長 50 mm, 殻高 35 mm ほどの卵円形をした二枚貝。殻質は厚く, 表面には後背縁の後端付近が湾入し, 殻頂から後端縁にかけて太く低い隆起がある(増田・内田, 2004)。マツカサガイ広域分布種 *Pronodularia cf. japonensis* 1 (Lea, 1859)(近藤, 2020) に似ており, 殻形質による識別がむずかしい。両種とも県内に分布するが, 本種の記録の方が多い。今回の調査では 1 カ所でのみ記録した。環境省 RDB, 山口県 RDB とともに絶滅危惧 II 類。

マルスダレガイ目 Order Venerida

シジミ科 Family Cyrenidae

89. タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (O. F. Müller, 1774) (図版 IX- 1-4) (淡水産)

【記 録】 秋根上町(用水路), 2022-VI-3, 3exs.; 吉見新町(用水路), 2022-IV-27, 2exs..

【備 考】 殻長 20 ~ 30 mm で, 殻の外形はマシジミとほぼ同じで区別がつかない。在来のマシジミと極めて近縁と考えられ(増田・内山, 2004; 熊澤ほか, 2019), 各地の用水路や川に繁殖している。中国・朝鮮半島等から侵入した外来種(増田・内山, 2004)で, 食用のシジミとして輸入され, その稚貝等が野外で繁殖したと考えられる。雌雄同体で卵胎生である。山口県内でも市街地を流れる用水路を中心にマシジミが減少し, 本種が拡大している。殻形は似ているがマシジミの殻色は黒く殻内面が淡い紫色を呈するに対し, タイワンシジミは殻色が黄色く, 殻内面全体が白色や橙色を呈する。増田らはタイワンシジミの中でも殻表面が黄色から淡茶褐色, 殻内面が白色ないし橙色を帯び, 両側歯が紫彩される型を“カネツケシジミ”と呼称して区別している(増田・波部, 1988; 増田ら, 1998)。殻形態の差異はあくまでも目安にすぎず, 外観からの識別はむずかしい。研究者によっては, マシジミはタイワンシジミのシノニム(同種異名)との見解もある(Morton, B., 1986; 酒井ほか, 2014)。今回の調査では, 2 カ所で記録した。

90. マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864 (図版 IX- 5) (淡水産)

【記 録】 吉見中町・かじや堤, 2022-IV-27, 6exs.; 永田郷(永田川河口), 2022-III-15, 4exs..

【備 考】 在来の淡水性二枚貝で, 河口域に生息するヤマトシジミ *C. japonica* Prime, 1864 とともに, かつては食用にされた。殻長 20 ~ 30 mm で, 生息環境によってその大小に多様性が現れる。小河川の流水中や池・沼などの止水域にすむ。近年, 生息適地の減少とともに, 外来のタイワンシジミと置き換わり,

生息地が少なくなっている。雌雄同体で卵胎生。殻色は若齢個体では黄褐色であるが、成貝になると黒褐色を呈する。なお、マシジミに関して、黒住（2014）は、縄文遺跡をはじめとする各地の遺跡出土貝類の分析により、マシジミが古代以降の外来移入種であるとの興味ある研究報告をしている。今回の調査では、2カ所から記録した。各地の小河川や用水路でタイワンシジミが優勢しており、マシジミは吉見地域などの河川上流部や溜池等で維持されているにすぎない。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類、山口県 RDB では情報不足。

## まとめ

調査の結果、旧下関市西部から陸産 18 科 70 種、淡水産 10 科 16 種、汽水産 2 科 4 種、計 29 科 90 種を記録することができた。レッドデータブック掲載種などの重要種は、オオピルスブリムシオイガイ（仮称）（図版 I- 3a-c, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類）、サドヤマトガイ（図版 I- 6; 環境省 RDB: 準絶滅危惧, 山口県 RDB: 絶滅危惧 IA 類）、ヒダリマキゴマガイ（図版 I-9, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類）、マルタニシ（図版 I- 10, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 準絶滅危惧）、クリイロカワザンショウガイ（図版 II- 2a-c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧）、ホラアナミジンニナ（図版 II- 5, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 準絶滅危惧）、ヒメマルマメタニシ（図版 II- 8, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 準絶滅危惧）、ヒラマキミズマイマイ（図版 III- 1a- c, 環境省 RDB: 情報不足）、ヒメヒラマキミズマイマイ（図版 III- 2a- c, 環境省 RDB: 絶滅危惧 IB 類, 山口県 RDB: 情報不足）、クルマヒラマキガイ（図版 III- 3a- c, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類）、ヒラマキガイモドキ（図版 III- 4a- c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧）、キセルガイモドキ（図版 IV- 7, 山口県 RDB: 準絶滅危惧）、カワモトギセル（図版 V- 4, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類）、ヒロクチコギセル（図版 V- 6, 環境省 RDB: 絶滅危惧 I 類, 山口県 RDB: 絶滅危惧 IB 類）、モリヤギセル（図版 V- 8, 環境省 RDB: 準絶滅危惧, 山口県 RDB: 準絶滅危惧）、キヌツヤベッコウ（図版 VI- 4a- c, 環境省 RDB: 情報不足）、ウメムラシタラガイ（図版 VII- 1a- c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧）、ヒラシタラガイ（図版 VII- 2a- c, 環境省: 絶滅のおそれのある地域個体群）、オオウエキビ（図版 VII- 4a, b, 環境省 RDB: 情報不足）、ツシマナガキビ（図版 VII- 5, 環境省 RDB: 準絶滅危惧, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類）、ヒメカサキビ（図版 VII- 6a- c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧）、タキカワオオベソマイマイ（図版 VIII- 7a- c, 山口県 RDB: 準絶滅危惧）、ニセマツカサ（図版 X- 1a, b, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類）、マシジミ（図版 X- 3a, b, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 情報不足）の 24 種であった。

## 旧下関市西部の陸産・淡水産（一部汽水産を含む）貝類のリスト

### 腹足綱 Class Gastropoda

#### アマオブネガイ目 Order Cycloneritimorpha

#### アマオブネガイ科 Family Neritidae

1. イシマキガイ *Clithon retropictum* (Martens, 1878)

### 新生腹足目（中腹足目）Order Caenogastropoda

#### ヤマタニシ科 Family Cyclophoridae

2. ピルスブリムシオイガイ *Dicharax pilsbryi* (Kobelt, 1902)
3. オオピルスブリムシオイガイ *Dicharax* sp. cf. *pilsbryi* (MS) (矢野仮称) 山口県（絶滅危惧 II 類）
4. ヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1861

5. アツブタガイ *Cyclotus campanulatus* Martens, 1866
6. サドヤマトガイ *Japonia sadoensis* Pilsbry & Y. Hirase, 1903 環境省（準絶滅危惧）山口県（絶滅危惧 IA 類）
7. ミジンヤマタニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900)  
ゴマガイ科 Family Diplommatinidae
8. キュウシュウゴマガイ *Diplommatina tanegashimae kyusyuensis* Pilsbry & Y. Hirase, 1904
9. ヒダリマキゴマガイ *Diplommatina pusilla* Martens, 1877 山口県（絶滅危惧 II 類）  
タニシ科 Family Viviparidae
10. マルタニシ *Cipangopaludina cf. laeta* (Martens, 1861) 環境省（絶滅危惧 II 類）山口県（準絶滅危惧）  
カワニナ科 Family Semisulcospiridae
11. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859)  
クビキレガイ科 Family Truncatellidae
12. ヤマトクビキレガイ（キュウシュウクビキレガイ）*Truncatella pfeifferi* Martens, 1861  
カワザンシヨウガイ科 Family Assimineidae
13. クリイロカワザンシヨウガイ *Angustassiminea castanea* (Westerlund, 1883) 環境省（準絶滅危惧）
14. サツマクリイロカワザンシヨウガイ *Angustassiminea satsumana* (Habe, 1942)
15. ダテカワザンシヨウ（ヒラドカワザンシヨウ）*Assiminea hiradoensis* Habe, 1942
16. ホラアナミジンニナ *Moria nipponica* (Mori, 1937) 環境省（絶滅危惧 II 類）山口県（準絶滅危惧）
17. ヘソカドガイ *Paludinellassiminea japonica* (Pilsbry, 1901)
18. オオウスイロヘソカドガイ *Paludinellassiminea tanegashimae* (Pilsbry, 1924)  
エゾマメタニシ科 Family Bithyniidae
19. ヒメマルマメタニシ *Gabbia kiusiuenensis* (S. Hirase, 1927) 環境省（絶滅危惧 II 類）山口県（準絶滅危惧）

#### 有肺目 Order Pulmonata

##### モノアラガイ科 Family Lymnaeidae

20. ヒメモノアラガイ *Orientgalba ollula* (Gould, 1859)
21. ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say, 1817)

##### サカマキガイ科 Family Physidae

22. サカマキガイ *Physella acuta* (Draparnaud, 1805)

##### ヒラマキガイ科 Family Planorbidae

23. ヒラマキミズマイマイ *Gyraulus spirillus* (Gould, 1859) 環境省（情報不足）
24. ヒメヒラマキミズマイマイ *Gyraulus* sp. (MS) 環境省（絶滅危惧 IB 類）山口県（情報不足）
25. クルマヒラマキガイ（レンズヒラマキガイ）*Helicorbis cf. cantori* (Benson, 1850) 環境省（絶滅危惧 II 類）山口県（絶滅危惧 II 類）
26. ヒラマキガイモドキ *Polypylis hemisphaerula* (Benson in Cantor, 1842) 環境省（準絶滅危惧）

##### オカミミガイ科 Family Ellobiidae

27. ハマシイノミガイ *Melampus nuxeastaneus* Kuroda, 1949

#### 後鰓亜綱 Class Opisthobranchia

##### マイマイ目（柄眼目）Order Stylommatophora

##### アフリカマイマイ科 Family Achatinidae

28. オカチョウジガイ *Allopeas kyotoense* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904)

29. ホソオカチヨウジガイ *Allopeas pyrgula* (Schmacker & Böttger, 1891)
30. ユウドオカチヨウジガイ類似種 *Allopeas* cf. *heudei* (Pilsbry, 1906)
31. トクサオカチヨウジガイ *Paropeas achatinaceum* (L. Pfeiffer, 1846)
32. オオクビキレガイ *Rumina decollata* (Linnaeus, 1758)
- タワラガイ科 Family Diapheridae**
33. タワラガイ *Sinoennea iwakawa* (Pilsbry, 1900)
- ナタネガイ科 Family Punctidae**
34. ミジンナタネガイ *Punctum atomus* Pilsbry & Y. Hirase, 1904
35. ハリマナタネガイ *Punctum japonicum* Pilsbry, 1900
36. ツクシナタネガイ *Punctum morseanum* Pilsbry, 1902
37. ヒメナタネガイ *Punctum pretiosum* (Gude, 1900)
38. クルマナタネガイ *Punctum rota* Pilsbry & Hirase, 1904
- オカモノアラガイ科 Family Succineidae**
39. ヒメオカモノアラガイ *Succinea lyrata* Gould, 1859
- キセルガイモドキ科 Family Enidae**
40. キセルガイモドキ *Mirus reinianus* (Kobelt, 1875) 山口県 (準絶滅危惧)
- ミジンマイマイ科 Family Valloniidae**
41. マルナタネガイ *Pupisoma orcula* (Benson, 1850)
42. ヒラドマルナタネガイ *Pupisoma harpula* (Reinhardt, 1886)
43. ミジンマイマイ *Vallonia costata* (O. F. Müller, 1774)
44. ツヤミジンマイマイ *Vallonia pulchella* (O. F. Müller, 1774)
- キセルガイ科 Family Clausiliidae**
45. シリオレギセル *Megalophaedusa bilabrata* (E. A. Smith, 1876)
46. カワモトギセル *Megalophaedusa kawamotoi* (Kuroda & Taki, 1944) 環境省 (絶滅危惧 II 類) 山口県 (絶滅危惧 II 類)
47. シイボルトコギセル *Reinia sieboldii* (L. Pfeiffer, 1848)
48. ヒロクチコギセル *Reinia variegata* (A. Adams, 1868) 環境省 (絶滅危惧 I 類) 山口県 (絶滅危惧 IB 類)
49. ナミギセル *Stereophaedusa japonica* (Crosse, 1871)
50. モリヤギセル *Stereophaedusa moriyai* (Kuroda & Taki, 1944) 環境省 (準絶滅危惧) 山口県 (準絶滅危惧)
51. ナミコギセル *Tauphaedusa tau* (Böttger, 1877)
54. スグヒダギセル *Zptyx strictaluna* (Böttger, 1877)
- ナメクジ科 Family Philomycidae**
53. ナメクジ *Meghimatium bilineatum* (Benson in Canter, 1842)
54. ヤマナメクジ *Meghimatium fruhstorferi* (Collinge, 1901)
- コウラナメクジ科 Family Limacidae**
55. チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* (Férussac, 1821)
- コハクガイ科 Family Gastrodontidae**
56. コハクガイ *Zonitoides arboreus* (Say, 1817)
- エゾエンザガイ科 Family Pristilomatidae**
57. ヒメコハクガイ *Hawaiiia minuscula* (Binney, 1841)
- シタラ科 Family Euconulidae**

58. ツノイロヒメベッコウ *Ceratochlamys ceratodes* (Gude, 1900)  
 59. ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877)  
 60. ヤクシマヒメベッコウ *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry, 1902)  
 61. コガタシロヒメベッコウ *Discoconulus* sp. (MS) (早瀬・西 (邦雄) 和名新称, 2016)  
 62. キビガイ *Gastrodонтella stenogyra* (A. Adams, 1868)  
 63. キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1902) 環境省 (情報不足)  
 64. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901)  
 65. ウスイロシタラガイ *Parasitala pallida* (Pilsbry, 1902)  
 66. マルシタラガイ *Parasitala reinhardti* (Pilsbry, 1900)  
 67. コシタカシタラガイ *Sitalina circumcincta* (Reinhardt, 1883)  
 68. ウメムラシタラガイ *Sitalina japonica* (Kuroda & Miyanaga, 1943) 環境省 (準絶滅危惧)  
 69. ヒラシタラガイ *Sitalina latissima* (Pilsbry, 1902) 環境省 (絶滅のおそれのある地域個体群)  
 70. カサキビ *Trochochlamys crenulata* (Gude, 1900)  
 71. オオウエキビ *Trochochlamys fraterna* (Pilsbry, 1900) 環境省 (情報不足)  
 72. ツシマナガキビ *Trochochlamys longissima* (Pilsbry & Hirase, 1909) 環境省 (準絶滅危惧) 山口県 (絶滅危惧 II 類)  
 73. ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata* (Pilsbry, 1901) 環境省 (準絶滅危惧)  
 74. ナミヒメベッコウ *Yamatochlamys vaga* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904)  
 75. オオクラヒメベッコウ *Yamatochlamys lampra* (Pilsbry & Hirase, 1904)  
**ベッコウマイマイ科 Family Helicarionidae**  
 76. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877)  
**ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科) Family Camaenidae**  
 77. ウスカワマイマイ *Acusta sieboldiana* (L. Pfeiffer, 1850)  
 78. ツシマケマイマイ 類似種 *Aegista* sp. cf. *trochula* (A. Adams, 1868)  
 79. キュウシュウシロマイマイ *Aegista eumenes* (Westerlund, 1883)  
 80. フリーデルマイマイ *Aegista friedeliana* (Martens, 1864)  
 81. タキカワオオベソマイマイ *Aegista aperta* (Pilsbry, 1900) 山口県 (準絶滅危惧)  
 82. コハクオナジマイマイ *Bradybaena pellucida* Kuroda & Habe in Habe, 1953  
 83. ツクシマイマイ *Euhadra herklotsi* (Martens, 1860)  
 84. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (Kobelt, 1894)  
 85. シメクチマイマイ *Satsuma ferruginea* (Pilsbry, 1900)  
 86. コベソマイマイ *Satsuma myomphala* (Martens, 1866)

**二枚貝綱 Class Bivalvia**

**イシガイ目 Order Unionida**

**イシガイ科 Family Unionidae**

87. ヌマガイ (ドブガイ A 型) *Sinanodonta lauta* (Martens, 1877)  
 88. ニセマツカサガイ *Inversium yanagawensis* (Kondo, 1982) 環境省 (絶滅危惧 II 類) 山口県 (絶滅危惧 II 類)

**マルスダレ目 Order Venerida**

**シジミ科 Family Cyrenidae**

89. タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (O. F. Müller, 1774)  
 90. マンシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864 環境省 (絶滅危惧 II 類) 山口県 (情報不足)

## 謝 辞

本稿を作成するにあたり、矢野重文氏（日本貝類学会評議員）には同定作業や査読など、湊 宏氏（日本貝類学会名誉会員・理学博士）には資料提供などをいただきました。また、直接、貴重な情報や標本の提供を受けた方、文献上の記録を引用させていただいた方々、現地の案内をしていただいた方々に対しましてもここに記してお礼を申し上げます。

## 参考文献

- 東 正雄 (1995) 原色日本陸産貝類図鑑 (増補改訂版) .xvi+ 343pp.+ 80pls., 保育社, 大阪 .
- 福田 宏 (2020) 軟体動物門 .In 岡山県野生動物目録 2019 ver. 1. 1, 29pp., 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山 .
- 福田 宏・増野和幸・杉村智幸 (1992) 概説 山口県の貝類 .99pp.+ 50pls., 山口県立山口博物館, 山口 .
- Gerber, J. (1996) Revision des *Gattung Vallonia* Risso, 1826 (Mollusca: Gastropoda: Valloniidae). Schriften zur Malakozoologie aus dem Haus der Natur. - Cismar, 8. 227 pp.
- 波部忠重 (1990) 日本非海産水棲貝類目録 (その1～3) . ちりぼたん, (54): 3- 6, (55): 3- 9, (56): 3- 7., 東京貝類同好会 .
- 早瀬善正・木村昭一・河辺訓辺・湊 宏 (2016) 震災後の宮城県北部沿岸域で確認された陸産および淡水産貝類 . ちりぼたん, **46**: (1/2): 2- 62.
- 平野尚浩・亀田勇一・福田 宏・斎藤 匠 (2016) 本州・山口県から新たに記録されたツシマケマイマイ (腹足綱: 有肺類: ナンバンマイマイ科) の移入個体群 . ちりぼたん, **46**(3/4): 149- 153.
- Hori Shigeo, Toshikazu Fukuda, Ken- Ichi Hosaka, Kazuyuki Mashino and Ikuyo Koda (1997) On the populations of *Hippeutis cantori* (Benson, 1850), a vulnerable freshwater snail (Branchiopulmonata: Planorbidae) in Yamaguchi Prefecture, Japan. *The Yuriyagai*, **5**(1/2): 61- 68.
- 藤原廣治 (1972) 山口県のオキギセル . 山口県の自然, **27**: 19.
- 石川県 (2020) いしかわレッドデータブック 2020. [https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/reddata/rdb2020/rdb\\_2020\\_pdf.html](https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/reddata/rdb2020/rdb_2020_pdf.html)
- Kano Yasunori, Hiroshi Fukuda, Hiroshi Yoshizaki, Miyoko Saito, Ken-ichi Hosaka, Tomoyuki Sugimura, Yasuko F. Ito, Hiroji Fujiwara, Yasuhiro Nakamura, Kazuyuki Mashino, Kenji Ito, Kunihiko Tone, Toshikazu Fukuda, Teruhisa Mitoki, Hiroyoshi Yamashita, Shigeo Hori, and Hisasuke Hori. (2001) Distribution and seasonal maturation of the alien slug *Lehmannia valentiana* (Gastropoda: Pulmonata: Limacidae) in Yamaguchi Prefecture, Japan. *The Yuriyagai*, **8**(1): 1- 13.
- 河上 勲・増野和幸・下瀬信雄・吉屋安隆・樋口尚樹・清水満幸 (1990) カタツムリの不思議—萩地方の陸産貝— . 2+85pp. +2pls. +1map., 萩市郷土博物館, 萩 .
- 河本卓介 (1964) 下関市吉見地区の貝類 . 山口県の自然, **12**: 22- 31.
- 河本卓介・田邊澄生 (1956) 山口県産貝類目録 . 8+ viii+ 170pp., (include. 25pls.), 山口県立山口博物館, 山口 .
- 川内野善治 (2015) 長崎県に於けるツシマケマイマイ *Aegista trochula* (A. Adams) (オナジマイマイ科) とナカダチギセル *Luchuphaedusa una* (Pilsbry) (キセルガイ科) の新産地 . 長崎県生物学会誌, (76): 70- 71.
- 近藤高貴 (2020) イシガイ科貝類の新たな分類体系 . ちりぼたん, **50**(2), 294- 296.
- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一 (2006) ドブガイに見られる遺伝的 2 型のグロキディウム幼生の形態 . *Venus*, **65**: 241- 245.



- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一（2011）ヌマガイとタガイの殻形態による判別．ちりぼたん, **41**(2): 84-88.
- 熊澤慶伯・松原美恵子・横山悠理・寺本匡覚・村瀬幸雄・那須健一郎・孫 圭・森山昭彦・川瀬基弘  
 （2019）名古屋市産淡水貝類の DNA バーコーディング．なごやの生物多様性, **6**: 1-14.
- 黒田徳米（1958）日本及び隣接地域産陸産貝類相（4）. *Venus*, **20**(1): 132-158.
- 黒田徳米・瀧 巖（1944）中国地方の新陸産貝類（2）. *キセルガヒ類*. *Venus*, **13**(5-8): 228-236.
- 黒田徳米・波部忠重（1949）かたつむり（*Helicacea*）. 129 pp., 三明社, 東京.
- 黒住耐二（2012）トクサオカチョウジガイ（p. 203-204）. In 原色図鑑 外来害虫と移入天敵. 404pp., 全国農村教育会, 東京.
- 黒住耐二（2014）淡水二枚貝マシジミは近世期の外来種かー遺跡出土貝類からの証明ー. 高梨学術奨励基金年報, 平成 25 年度: 67-73.
- 増野和幸（1989）美祿郡陸産ならびに淡水産貝類. 57 pp. (incl. 8 pls.), 自刊, 山口小郡.
- 増野和幸（1990）山口の貝人伝（1）瀧川昇平氏（1876—1943）. *ユリヤガイ*, **1**: 35-36.
- 増野和幸（1992）オオクビキレガイ山口県に産す. *ちりぼたん*, **22**(2): 55-56.
- 増野和幸（1994）コハクオナジマイマイの有帯型が生息. *ユリヤガイ*, **3**: 25.
- 増野和幸（2014）秋吉台草原上に形成されたブッシュ（小樹林）の陸貝相. *山口県の自然*, **74**: 29-35.
- 増野和幸（2022）外来陸産貝・オオクビキレガイ（*Rumina decollata*）, 旧美祿郡内に移入する. *温故知新*, **49**: 1-4., 美東町文化研究会.
- 増野和幸（2022）ツシマケマイマイを山口県宇部市で記録. *九州の貝*, (98): 18-20.
- 増野和幸・鳥越賢治（2011）キュウシュウシロマイマイ 2 亜種の殻形態とその生息環境. *Venus*, **69**(3/4): 177-194.
- 増野和幸・川野敬介（2017）下関市豊田町の陸産・淡水産貝類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (9): 7-49.
- 増野和幸・川野敬介（2018）下関市豊北町の陸産・淡水産貝類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10): 51-84.
- 増野和幸・川野敬介（2020）下関市豊浦町の陸産・淡水産貝類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (12): 1-37.
- 増野和幸・川野敬介（2021）下関市菊川町の陸産・淡水産貝類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (13): 19-54.
- 増野和幸・川野敬介（2022）旧下関市東部の陸産・淡水産貝類（汽水産を含む）. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (14): 15-55.
- 増田 修・波部忠重（1988）岡山県倉敷市にすみついたカネツケシジミ. *ちりぼたん*, **19**(2): 39-40.
- 増田 修・河野圭典・片山 久（1998）西日本におけるタイワンシジミ種群とシジミ属の不明種 2 種の産出状況. *兵庫陸水生物*, **49**: 22-35.
- 増田 修・内山りゅう（2004）日本淡水産貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水産貝類. 240pp., 株式会社ビーシーズ, 東京.
- 松隈明彦・秋月定良・秋月シズカ・嶺井久勝（2006）偶発的移入種オオクビキレガイ（腹足綱：オオクビキレガイ科）の福岡県での生息状況とその拡散速度. *ちりぼたん*, **37**(1): 7-12.
- 湊 宏（1974）オキギセルとモリヤギセル. *山口県の自然*, **31**: 8-11.
- 湊 宏（1980）陸産貝類の観察と研究. 85 pp., ニュー・サイエンス社, 東京.
- 湊 宏（1988）日本陸産貝類総目録. 294 pp., 日本陸産貝類総目録刊行会, 白浜.
- 湊 宏（1989）シーボルトコギセルガイ. *日本の生物*, **3**(5): 48-54.

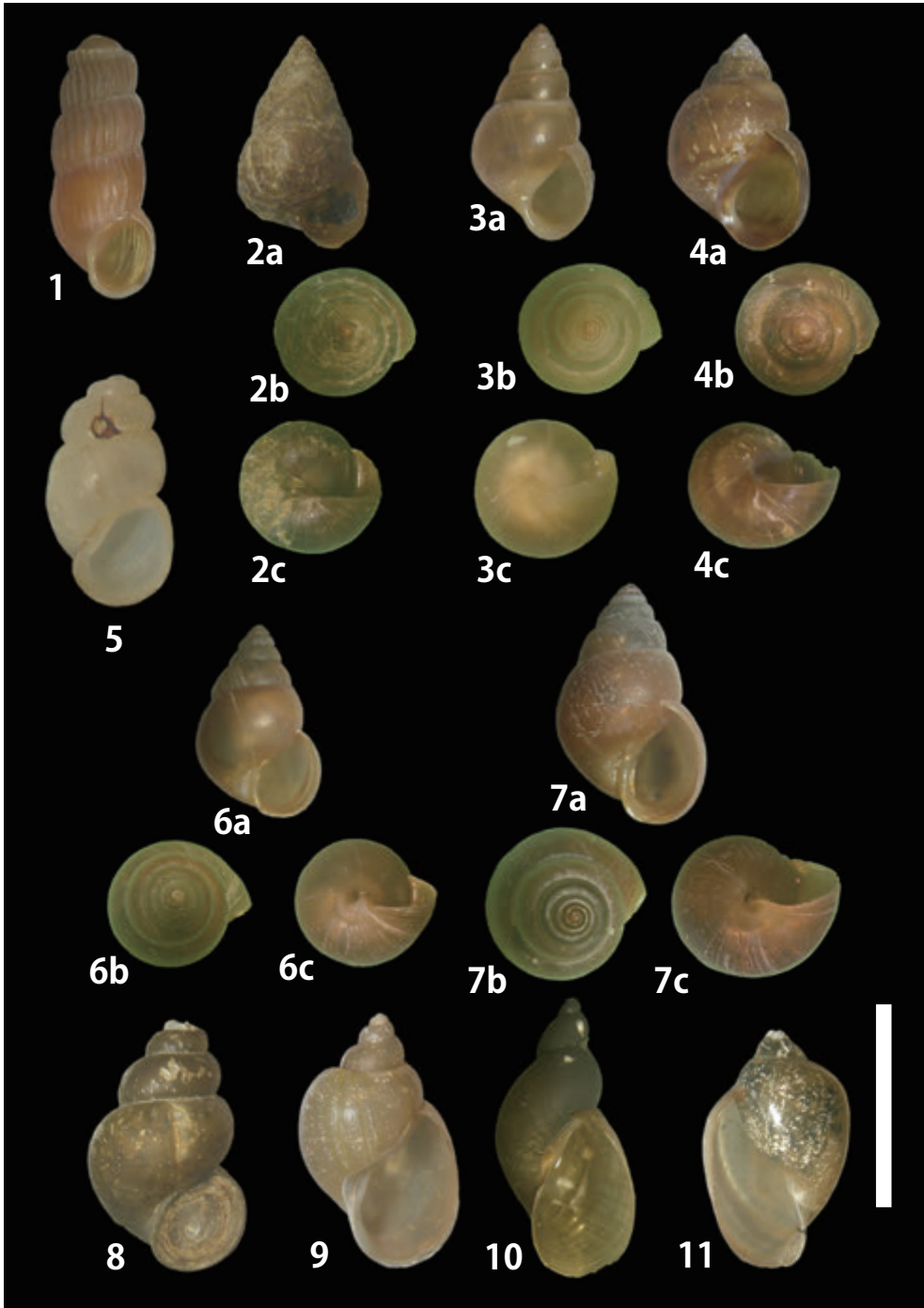
- 湊 宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus*, Supplement 2: 212pp. +tables 6 +plates 74. 日本貝類学会.
- 湊 宏 (2005) 双島(串本町)の陸産貝類、特にミジンマイマイ類の分類について. *南紀生物*, **47**(1): 37-42.
- 湊 宏・魚住賢司 (1991) 北九州市で見つかったオオクビキレガイ. *ちりぼたん*, **22**(3): 72-74.
- 湊 宏・藤原廣治・伊藤賢司 (1999) 岩国市城山のカワモトギセル. *ちりぼたん*, **29**(3): 57-59.
- 湊 宏・川名美佐男 (2002) 金華山の陸産貝類、特にヒロクチコギセルの分布について. *ちりぼたん*, **32**(3): 75-81.
- 湊 宏・増野和幸・矢野重文 (2018) 山口県萩市の見島産“ミシマヒメベッコウ”(シタラ科)の生殖器官形態とその分類知見. *南紀生物*, **60**(1): 63-66.
- 湊 宏・西野 宏・松本達也 (2018) ツシマケマイマイの熊本からの初記録. *南紀生物*, **60**(2): 204-206.
- 宮崎晋介 (2020) ナガトギセル(スグヒダギセルのシノニム)の新産地(福岡県). *九州の貝*, (94): 22-25.
- 宮崎晋介・増野和幸 (2022) 北九州市藍島の陸貝. *九州の貝*, (99): 8-14.
- Morton, B. (1986) *Corbicula in Asia — an updated synthesis. American Malacological Bulletin*, Special Edition (2): 113-124.
- Motochin, Wang & Ueshima, Rei (2017) Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zoological Journal of the Linnean Society*, **181**: 795-845.
- 西 浩孝・西 邦雄 (2018) 宮崎県のカタツムリ. 149pp., 黒潮文庫, 宮崎.
- 西脇三郎 (1996) イシマキガイ (3-8, 79, 80). In: 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (III). 582 pp., 日本水産資源保護協会.
- Pilsbry, H. A. (1900) *Eulota (Aegista) aperta*: In Addition to the Japanese land fauna. *Proc. Acad. Nat. Sci. Philadelphia*, **51** (1899): 525-530, pl. 21, fig. 7-9.
- Forsyth, R. G. (1999) Distributions of nine new or little-known exotic land snails in British Columbia. *The Canadian Field-Naturalist*, **113**(4): 559-568.
- 酒井修己・高橋俊雄・古丸 明 (2014) 日本産マシジミおよび外来タイワンシジミ類のアロザイム変異と淡水シジミ類の多様性. *Venus*, **72**(1-4): 109-121.
- 澤島拓夫・瀬口翔太・黒住耐二 (2018) 奈良公園で発見された外来種キイロナメクジについて. *近畿大学農学部紀要*, **51**: 70-74.
- Seki, K., Ampom, W., Asami, T. (2008) Fluorescent pigment distinguishes between sibling snail species. *Zoological Science*, **25**(12): 1212-1219.
- 下関市史編集委員会 (1992) 下関市史・民俗編. 906pp., 下関市.
- 田部雅昭・福原修一・長田芳和 (1994) 淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的2型. *Venus*, **53**: 29-35.
- Takumi Saito, Satoshi Chiba & Hiroshi Fukuda (2020) Type materials of the species of the Planorbidae (Mollusca, Gastropoda, Hygrophila) described by Shuichi Mori. *Molluscan Research*, **40**(2): 169-182.
- 鳥取県 (2022) レッドデータブックとっとり第3版. <https://www.pref.tottori.lg.jp/308682.htm>
- 山口県 (2003) レッドデータブックやまぐち(貝類). 2pls.+55pp., 山口県環境生活部自然保護課, 山口.
- 山口 昇・波部忠重 (1958) 日本産ナメクジ類の研究 (1). *Venus*, **18**(4): 234-240.
- 山下博由 (2002) 多摩川氾濫原の陸産貝類相 (p. 13-51). In 多摩川水系の貝類からみた自然環境の現状把握と保全に関する研究, とうきゅう環境浄化財団研究助成・学術研究報告書. **31**(226), 242 pp., とうきゅう環境浄化財団, 東京.
- 矢野重文 (1990) 四国新記録の陸産貝類 (1) - ヒラシタラ -. *まいご*, (4): 20-23. 四国貝類談話会.
- 矢野重文 (2015) 種の考察 (分布図からのアプローチ). *まいご*, (22): 21-31. 四国貝類談話会.
- 矢野重文 (2016) ナタネガイ類の分類について. *まいご*, **23**: 3-10, 四国貝類談話会.
- 矢野重文 (2019) 『宮崎県のカタツムリ』に掲載された3種のシタラ科貝類について. *九州の貝*, (92): 16-23.

図版I (Plate I)



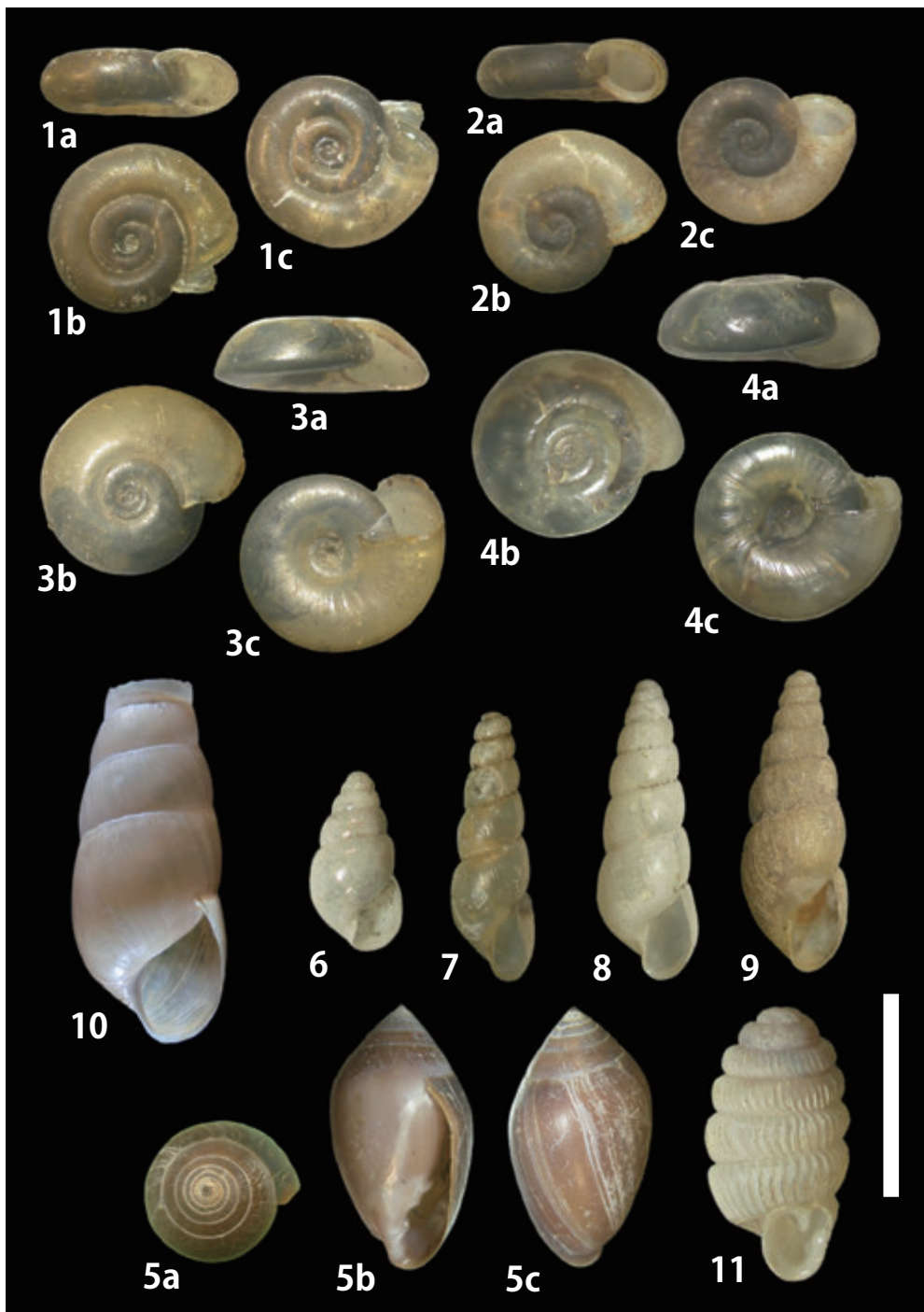
1a-c. イシマキガイ (吉見右王田) [Scale bar : 17.6 mm] : 2a-c. ビルスプリムシオイガイ (蒲生野深坂) [3.9 mm] : 3a-c. オオピルスプリムシオイガイ (棕野町一里山) [4.1 mm] : 4a-c. ヤマトニシ (彦島老の山) [27.7 mm] : 5a-c. アツタガイ (棕野町一里山) [15.9 mm] : 6. サドヤマトガイ (高畑霊鷲山) [3.5 mm] : 7a-c. ミジンヤマトニシ (蒲生野深坂) [2.2 mm] : 8. キュウシュウゴマガイ (蒲生野深坂) [2.4 mm] : 9. ヒダリマキゴマガイ (蓋井島) [1.8 mm] : 10. マルタニシ (秋根上町) [19.9 mm] : 11a. カワニナ (成体) (吉見上奥畑) [24.9 mm] : 11b. カワニナ (胎児殻) (吉見上奥畑) [1.8 mm].

図版II (Plate II)



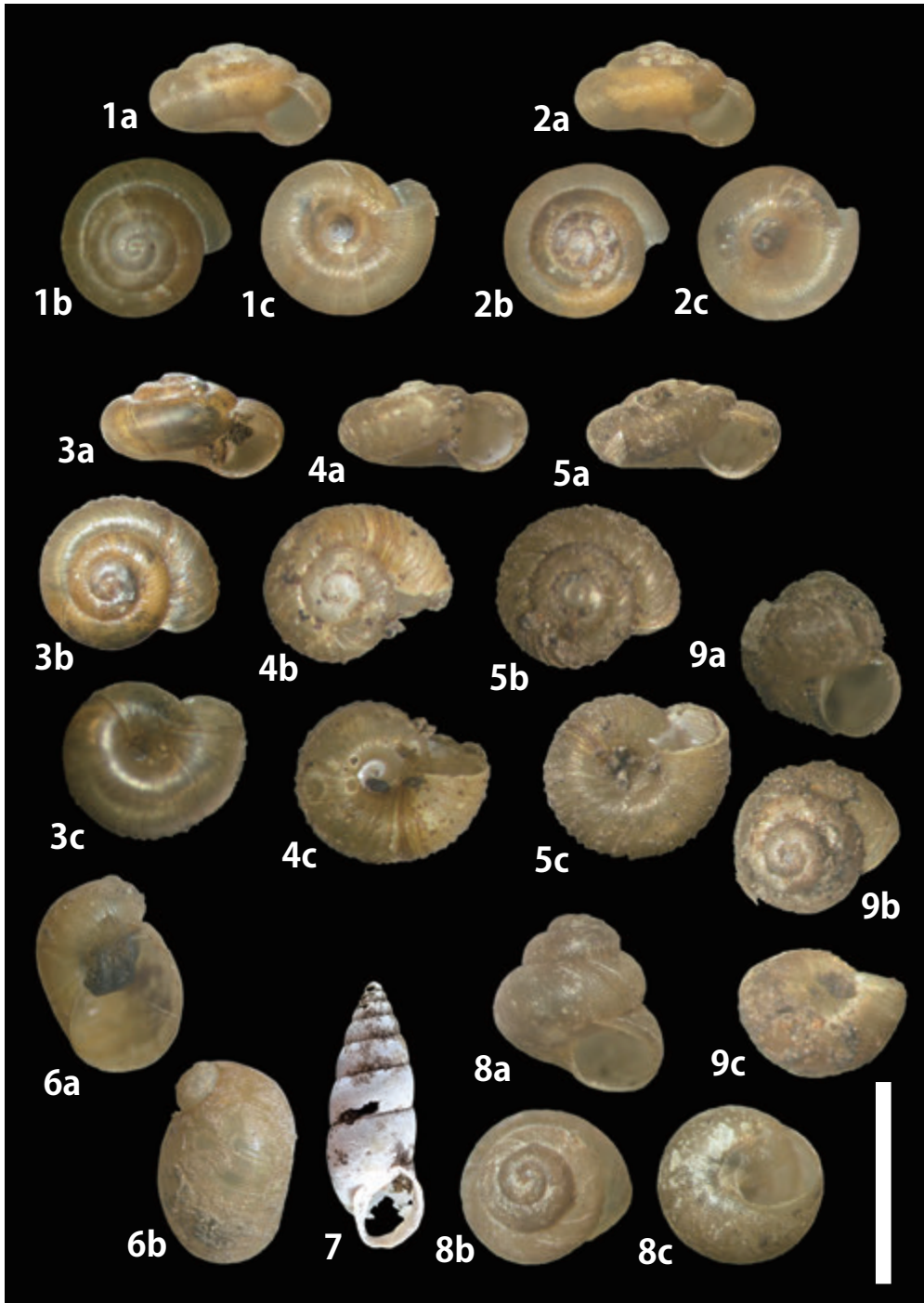
1. ヤマトクビキレガイ (吉見串本岬) [S. b. : 4.8mm] : 2a-c. クリイロカワザンショウガイ (吉見永田川河口) [5 mm] : 3a-c. サツマクリイロカワザンショウガイ (六連島) [4.1 mm] : 4a-c. ヒラドカワザンショウガイ (吉見永田川河口) [6.9 mm] : 5. ホラアナミジンナ (吉見吉見岬) [1.5 mm] : 6a-c. ヘソカドガイ (吉母海岸) [6.3 mm] : 7a-c. オオウスイロヘソカドガイ (蓋井島) [5.8 mm] : 8. ヒメマルマメタニシ (蒲生野) [4.7 mm] : 9. ヒメモノアラガイ (吉見中町) [6.8 mm] : 10. ハブタエモノアラガイ (長府侍町) [8.3 mm] : 11. サカマキガイ (蒲生野) [7.2 mm].

図版III (Plate III)



1a-c. ヒラマキミズマイマイ (蒲生野) [S. b. : 4.1 mm] : 2a-c. ヒメヒラマキミズマイマイ (蓋井島) [1.9 mm]  
 : 3a-c. クルマヒラマキガイ (蒲生野) [5.6 mm] : 4a-c. ヒラマキガイモドキ (蒲生野) [4.2 mm] : 5a, b. ハマ  
 シイノミガイ (吉母海水浴場) [9.2 mm] : 6. オカチョウジガイ (吉母永田郷) [6.4 mm] : 7. ホソオカチョウジ  
 ガイ (棕野町一里山) [4.3 mm] : 8. ユウドオカチョウジガイ類似種 (阿弥陀寺町) [6.5 mm] : 9. トクサオカチ  
 ヨウジガイ (みもすそ川町火の山) [5.6 mm] : 10. オオクビキレガイ (吉見古宿町) [13.5 mm] : 11. タワラガ  
 イ (吉母竜王山) [2.4 mm].

図版IV (Plate IV)



1a-c. ミジンナタネガイ (長府珠の浦町) [S.b. : 1.5 mm] : 2a-c. ハリマナタネガイ (蒲生野竹生寺) [1.6 mm]  
 : 3a-c. ツクシナタネガイ (吉母黒嶋観音) [1.9 mm] : 4a-c. ヒメナタネガイ (高畑霊鷲山) [1.2 mm] : 5a-c.  
 クルマナタネガイ (吉母竜王山) [4.5 mm] : 6a, b. ヒメオカモノアラガイ (蒲生野) [4.5 mm] : 7. キセルガイ  
 モドキ (蓋井島) [20 mm] : 8a-c. マルナタネガイ (安岡町) [2 mm] : 9a-c. ヒラドマルナタネガイ (一の宮住  
 吉) [1.8 mm].

図版V (Plate V)



1a-c. ミジンマイマイ (長府珠の浦町) [S. b. : 2.7 mm] : 2a-c. ツヤミジンマイマイ (吉母黒嶋観音) [2.5 mm]  
 : 3. シリオレギセル (吉母永田郷) [18.1 mm] : 4. カワモトギセル (蒲生野竹生寺) [17 mm] : 5. シイボルト  
 コギセル (阿弥陀寺町) [19.4 mm] : 6. ヒロクチコギセル (長府宮の内町) [10.7 mm] : 7. ナミギセル (金比羅  
 町) [21.2 mm] : 8. モリヤギセル (蒲生野深坂) [21.1 mm] : 9. ナミコギセル (金比羅町) [17.7 mm] : 10. ス  
 グヒダギセル (阿弥陀寺町) [17 mm] : 11a-c. コハクガイ (吉母本町黒嶋観音) [4.6 mm] : 12a-c. ヒメコハク  
 ガイ (安岡町) [1.5 mm] : 13a-c. ツノイロヒメベッコウ (棕野町一里山) [3.6 mm] : 14a-c. ヒメベッコウガイ  
 (彦島迫町) [2.1 mm].

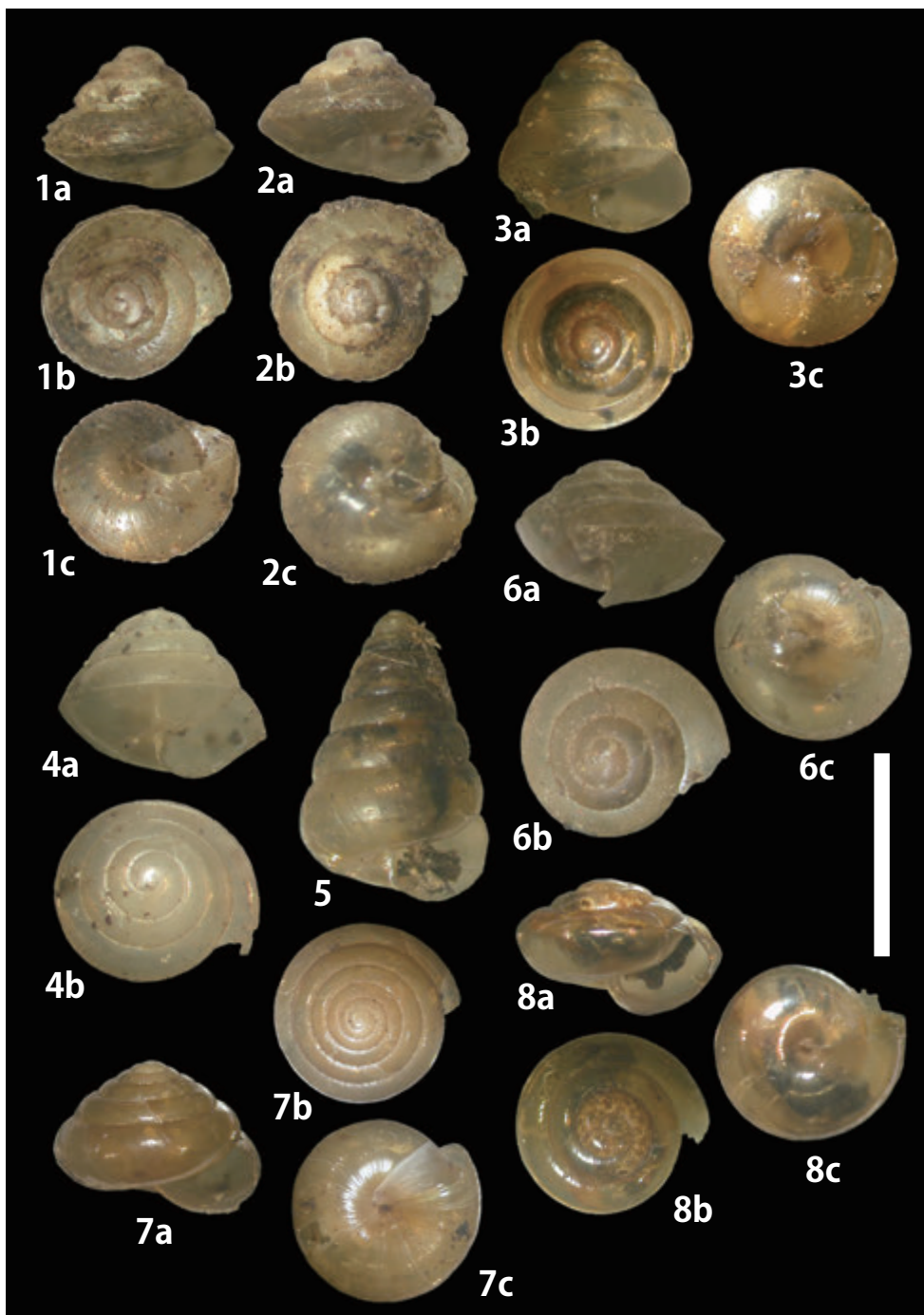
図版VI (Plate VI)



1a-c. ヤクシマヒメベッコウガイ (蒲生野竹生寺) [S. b. : 2.8 mm] : 2a-c. コガタシロヒメベッコウガイ (高畑  
 霊鷲山) [1.8 mm] : 3a-c. キビガイ (金比羅町) [2.3 mm] : 4a-c. キヌツヤベッコウガイ (みもすそ川町火の山  
 ) [1.6 mm] : 5a-c. ハリマキビ (安岡町) [2.5 mm] : 6a-c. ウスイロシタラガイ (安岡町) [2.6 mm] : 7a-c. マ  
 ルシタラガイ (蒲生野深城) [2.8 mm] : 8a-c. コシタカシタラガイ (高畑霊鷲山) [2.3 mm].



図版VII (Plate VII)



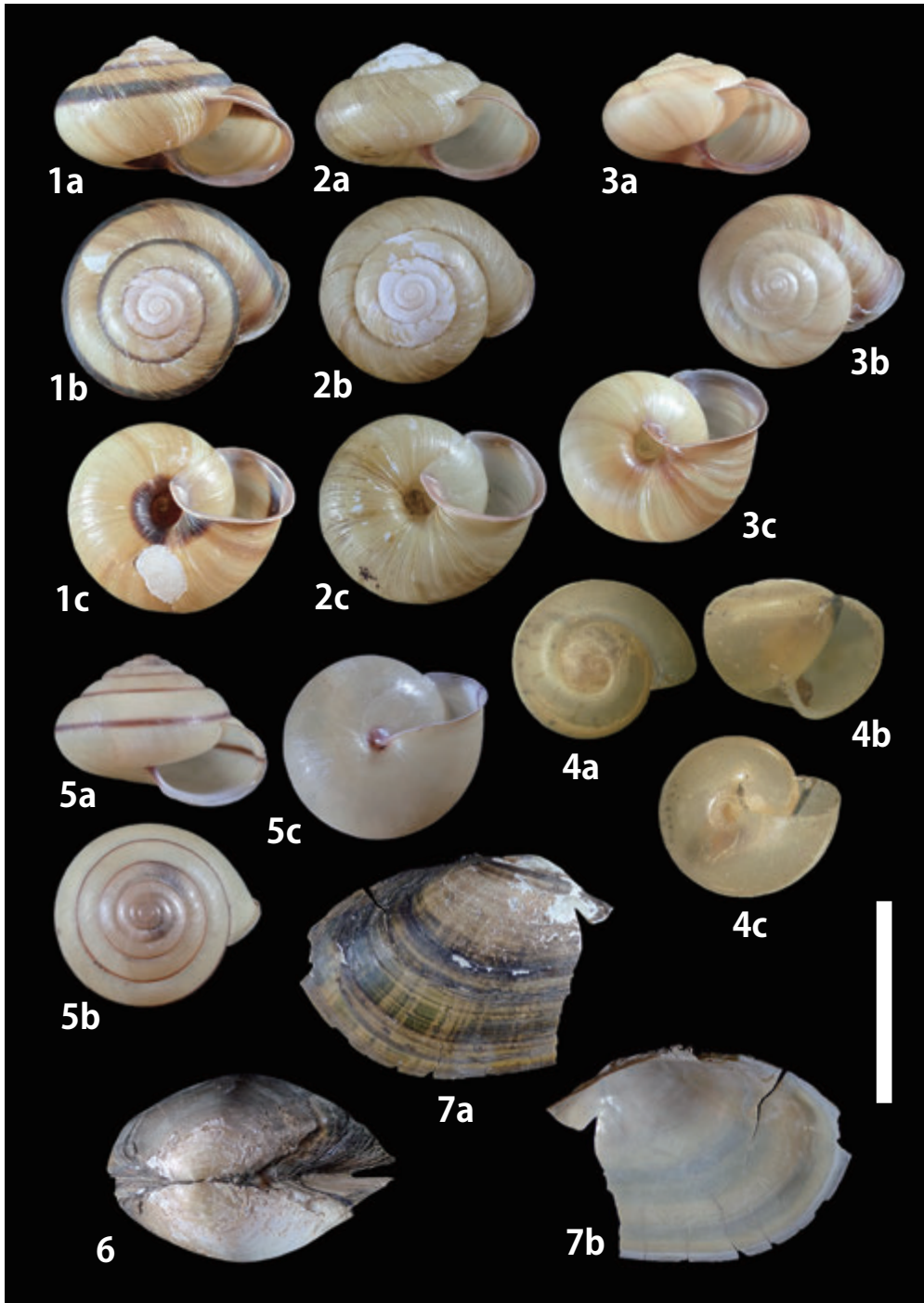
1a-c. ウメムラシタラガイ (棕野町一里山) [S. b. : 2.2 mm] : 2a-c. ヒラシタラガイ (蓋井島) [2 mm] : 3a-c. カサキビ (高畑霊鷲山) [2.8 mm] : 4a, b. オオウエキビ (高畑霊鷲山) [1.7 mm] : 5. ツシマナガキビ (吉母竜王山) [2.7 mm] : 6a-c. ヒメカサキビ (吉見上) [1.8 mm] : 7a-c. ナミヒメベッコウ (六連島) [5.9 mm] : 8a-c. オオクラヒメベッコウ (彦島迫町) [2.6 mm].

図版VIII (Plate VIII)



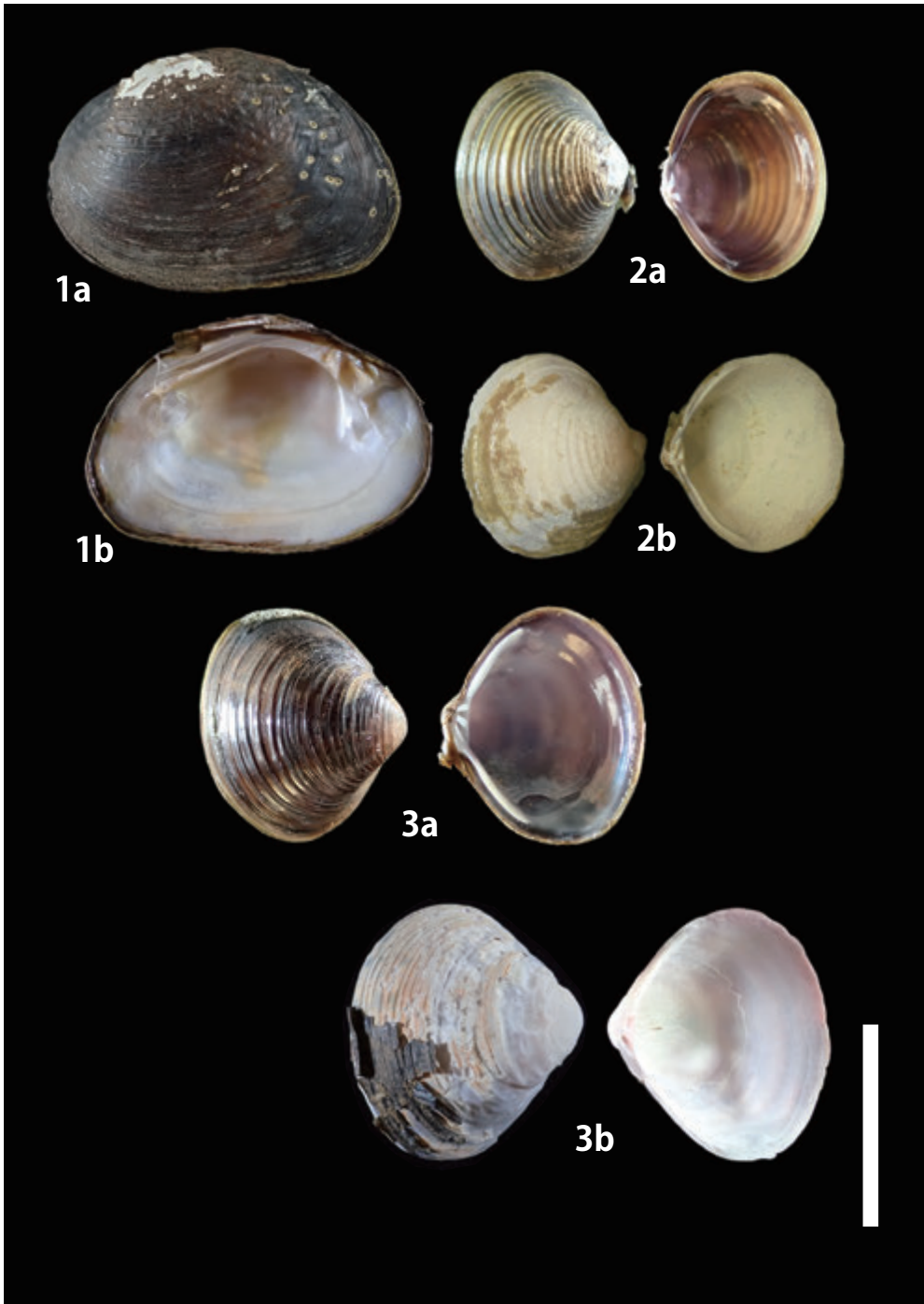
1a-c. ウラジロベッコウ (高畑霊鷲山) [S. b. : 4.4 mm] : 2a-c. ウスカワマイマイ (蓋井島) [21.6 mm] : 3a-c. ツシマケマイマイ類似種 (彦島迫町) [12.6 mm] : 4a-c. キュウシュウシロマイマイ (殻全面白色型) (吉母) [17.6 mm] : 5a-c. キュウシュウシロマイマイ (染め分け型) (金比羅町) [12.9 mm] : 6a-c. フリーデルマイマイ (阿弥陀寺町) [14.2 mm] : 7a-c. タキカワオオベソマイマイ (吉見) [16.6 mm] : 8a-c. コハクオナジマイマイ (棕野町一里山) [11.5 mm].

図版IX (Plate IX)



1a-c. ツクシマイマイ（有帯、0204型）（蓋井島）[S. b. : 36.7 mm] : 2a-c. ツクシマイマイ（無帯、0000型）（彦島福浦町）[37.3 mm] : 3a-c. セトウチマイマイ（棕野町一里山）[36.5 mm] : 4a-c. シメクチマイマイ（幼体）（六連島）[4.7 mm] : 5a-c. コベソマイマイ（長府安養寺町）[35.8 mm] : 6. ヌマガイ（破損個体）（吉見中町）[37.5 mm] : 7a, b. ヌマガイ（破損個体）（吉見中町）[58.2 mm].

図版X (Plate X)



1a, b. ニセマツカサガイ (吉見新町) [S. b. : 29.6 mm] : 2a. タイワンシジミ (吉見新町) [12.3 mm] : 2b. タイワンシジミ (秋根上町) [7.8 mm] : 3a. マシジミ (吉見永田郷) [15.1 mm] : 3b. マシジミ (吉見中町) [31.2 mm].

図版XI (Plate XI)



1. オオビルスプリムシオイガイ（棕野町一里山）；2. ホラアナミジンナ（吉見吉見峠）；3. ヘソカドガイ（蓋井島）；4. ホソオカチョウジガイ（棕野町一里山）；5. オオクビキレガイ（吉母黒嶋観音）；6. ヒメオカモノアラガイ（蒲生野）；7. ヒロクチコギセル（一の宮住吉）；8. ナメクジ（吉母東条）；9. ツヤミジンマイマイ（吉母黒嶋観音）；10. シイボルトコギセル（金比羅町）。

図版XII (Plate XII)



1. ナミゴギセル (金比羅町) ; 2. ヤマナメクジ (幡生宮の下町) ; 3. チャコウラナメクジ (吉見永田本町) ; 4. キビガイ (高畑霊鷲山) ; 5. コハウオナジマイマイ (金比羅町) ; 6. ウスカワマイマイ (みもすそ川町火の山) ; 7. キュウシュウシロマイマイ (吉見竜王山) ; 8. タキカワオオベツマイマイ (蒲生野深坂) ; 9. ツクシマイマイ (蓋井島) .